

官報

號外 昭和十六年二月十三日

○第七十六回 帝國議會 貴族院議事速記録第十二號

昭和十六年二月十二日(水曜日)午前十時八分開議

議事日程 第十二號

昭和十六年二月十二日

午前十時開議

- 第一 無盡業法中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會
- 第二 國家總動員法中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會
- 第三 衆議院議員ノ任期延長ニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會
- 第四 府縣會議員、市町村會議員等ノ任期延長ニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會
- 第五 國防保安法案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會
- 第六 帝都高速度交通營團法案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會
- 第七 日本發送電株式會社法中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會
- 第八 關稅定率法中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第九 昭和十二年法律第五十七號改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第十 相續稅法中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第十一 臨時利得稅法中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第十二 樺太開發株式會社法案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第十三 陸軍軍法會議法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第十四 海軍軍法會議法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第十五 留萌鐵道株式會社及新瀉臨港開發株式會社所屬鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第十六 田名部運輸軌道株式會社所屬軌道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第十七 富士身延鐵道株式會社及白棚鐵道株式會社所屬鐵道買收ニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

法律案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第十八 大正九年法律第五十六號中改正法律案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第十九 軍機保護法中改正法律案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

假議長(公爵德川閑順君)

本日松平議長ヨリ、議長、副議長共ニ病氣ノ爲出席不能ノ趣キナルニ依ッテ、本員ヲ假議長ニ指名スル旨ノ通知ヲ受ケマシタ、仍テ此ノ席ヲ汚シマス、何分萬事不慣レデゴザイマスカラ、諸君ノ御援助ヲ御願ヒ致シマス

假議長(公爵德川閑順君) 報告ヲ致サセマス

(高山書記官朗讀)

一昨日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提出案ハ即日之ヲ衆議院ニ送付セリ

郵便貯金法中改正法律案

同日本院ニ於テ採擇スルコトヲ議決シタル官立船舶無線電信學校設立ニ關スル請願外五件ノ請願ハ各、意見書ヲ附シ即日之ヲ政府ニ送付セリ

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

陸軍軍法會議法中改正法律案可決報告書

海軍軍法會議法中改正法律案可決報告書

留萌鐵道株式會社及新瀉臨港開發株式會社所屬鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案可決報告書

田名部運輸軌道株式會社所屬軌道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案可決報告書

富士身延鐵道株式會社及白棚鐵道株式會社所屬鐵道買收ニ關スル法律案可決報告書

大正九年法律第五十六號中改正法律案可決報告書

軍機保護法中改正法律案可決報告書

同日內閣總理大臣ヨリ左ノ通第七十六回帝國議會政府委員仰付ラレタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

政府委員

在滿教務部長 岩松 五良君

大藏省所管事務政府委員 野田 卯一君

司法省所管事務政府委員 太田 耐造君

厚生省所管事務政府委員 築 誠君

保險院書記官

假議長(公爵德川閑順君) 是ヨリ本日ノ會議ヲ閉キマス、請願ノ件ニ付御諮ヲ致シマス、男爵阪谷芳郎君、男爵郷誠之助君、何レモ病氣ニ付九日間、福永吉之助君病氣ニ付八日間、請願ノ申出ガゴザイマシタ、許可ヲ致シテ御異議ゴザイマセヌカ

(異議ナシ)ト呼フ者アリ

假議長(公爵德川閑順君) 御異議ナイト認メマス

明治二十五年三月三十一日 第三千七百九十二號

○假議長(公爵徳川順君) 日程第一、無盡業法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、河田大藏大臣

(左ノ案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ做フ)

無盡業法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十六年二月八日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長 伯爵松平賴壽殿

無盡業法中改正法律案

無盡業法中左ノ通改正ス

第一條中「金錢」又ハ有價證券ヲ「金錢、有價證券其ノ他ノ財産」ニ改ム

第五條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

金錢及有價證券以外ノ財産ノ給付ヲ爲ス無盡業トスル無盡會社ハ前項ノ外

其ノ商號中ニ其ノ給付ヲ爲ス主タル財産ノ種類ヲ示スベキ文字ヲ用フベシ

第七條 無盡會社ノ營業區域ハ道府縣ノ區域内ニ於テ之ヲ定ムベシ但シ特別ノ事情アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ營業區域ハ定款中ニ之ヲ記載スベシ

第十條 無盡會社ハ左ノ方法ニ依ルノ外其ノ營業上ノ資金ヲ運用スルコトヲ得ズ

一 有價證券ノ應募、引受又ハ買入

二 有價證券又ハ不動産ヲ擔保トスル貸付

三 金錢ノ給付ヲ爲ス無盡ノ掛金者ニ對シ契約給付金額ヲ限度トスル貸付

四 銀行若ハ庶民金庫ヘノ預ケ金又ハ郵便貯金

五 命令ノ定ムル所ニ依リ信託會社ヘ爲ス金錢信託

六 金錢及有價證券以外ノ財産ノ給付ヲ爲ス無盡ノ給付ノ爲ニ必要ナル財産ノ取得等ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノ

無盡會社前項第一號又ハ第二號ノ規定ニ依リ國債、地方債並ニ特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル法人ノ債券及株式

以外ノ有價證券ノ應募、引受若ハ買入又ハ之ヲ擔保トスル貸付ヲ爲サントスルトキハ豫メ其ノ有價證券ノ種類ニ付主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第一項第三號ノ規定ニ依ル貸付金額中既ニ拂込ミタル金額ヲ超過スル額ニ付テハ確實ナル擔保又ハ保證アルコトヲ要ス

第十二條中「其ノ會社」ヲ「其ノ會社又ハ其ノ會社ニ第二十一條ノ六ノ規定ニ依ル管理ヲ委託シタル無盡會社」ニ改ム

第二十一條中「無盡會社ノ合併」ヲ「無盡會社ノ合併又ハ營業ノ全部若ハ一部ノ讓渡若ハ讓受」ニ改ム

第二十一條ノ四 無盡會社ガ其ノ營業全部ノ讓渡又ハ他ノ無盡會社ノ營業全部ノ讓受ノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ノ日ヨリ二週間内ニ決議ノ要旨及其ノ債權者ニシテ營業全部ノ讓渡又ハ讓

受ニ異議アラバ一定ノ期間内ニ之ヲ述ブベキ旨ヲ公告シ且掛金者以外ノ知レタル債權者ニハ各別ニ之ヲ催告スルコトヲ要ス但シ其ノ期間ハ一月ヲ下ルコトヲ得ズ

債權者ガ前項ノ期間内ニ異議ヲ述ベザリシトキハ營業全部ノ讓渡又ハ讓受ヲ承認シタルモノト看做ス

第一項ノ期間内ニ債權者ガ異議ヲ述ベタルトキハ營業全部ノ讓渡又ハ讓受ヲ爲サントスル無盡會社ハ辨濟ヲ爲シ若ハ相當ノ擔保ヲ供シ又ハ債權者ニ辨濟ヲ受ケシムルコトヲ目的トシテ信託會社ニ相當ノ財産ヲ信託スルコトヲ要ス

第二十一條ノ五 無盡會社ガ其ノ營業全部ノ讓渡ヲ爲シタルトキハ遲滞無ク其ノ旨ヲ公告スルコトヲ要ス

前項ノ公告アリタルトキハ營業全部ノ讓渡ヲ爲シタル無盡會社ノ掛金者ニ對シ民法第四百六十七條ノ規定ニ依リ確定日附アル證書ヲ以テスル通知アリタルモノト看做ス此ノ場合ニ於テハ其ノ公告ノ日附ヲ以テ確定日附トス

第二十一條ノ六 無盡會社ハ契約ヲ以テ他ノ無盡會社ニ其ノ業務及財産ノ管理ヲ委託スルコトヲ得

前項ノ契約ハ各無盡會社ニ於テ株主總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

前項ノ決議ハ商法第三百四十三條ノ規定ニ依ルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十一條ノ七 前條第一項ノ契約ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第二十一條ノ八 前條ノ認可アリタルトキハ各無盡會社ハ遲滞ナク其ノ旨及契約ノ要旨ヲ公告シ且管理ヲ委託シタル無盡會社ニ在リテハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨並ニ受託無盡會社ノ商號及本店ノ所在地ヲ登記スルコトヲ要ス

前項ノ登記ハ委託無盡會社ノ本店及支店ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十一條ノ九 本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外委託無盡會社ト受託無盡會社トノ間ノ關係ハ委任ニ關スル規定ニ從フ

第二十一條ノ十 受託無盡會社ガ委託無盡會社ノ爲ニ無盡契約其ノ他ノ取引ヲ爲スニハ委託無盡會社ノ爲ニスルコトヲ表示スルコトヲ要ス

前項ノ表示ヲ爲サズシテ爲シタル無盡契約其ノ他ノ取引ハ之ヲ自己ノ爲ニ爲シタルモノト看做ス

商法第三十八條第一項ノ規定ハ受託無盡會社ニ之ヲ準用ス

民法第四十四條第一項ノ規定ハ管理ノ委託アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十一條ノ十一 管理契約ノ解除ハ株主總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

前項ノ決議ハ商法第三百四十三條ノ規定ニ依ルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十一條ノ七ノ規定ハ第一項ノ解除ニ之ヲ準用ス

第二十二條ノ十二 管理契約ノ解除又ハ終了アリタルトキハ各無盡會社ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ公告スルコトヲ要ス

第三十四條中「無盡管理會社」ヲ「無盡會社ニ非ズシテ無盡ノ管理ヲ業トスル會社（以下無盡管理會社ト稱ス）」ニ改ム

第三十七條中「又ハ清算人」ヲ「若ハ清算人又ハ第二十一條ノ六ノ規定ニ依ル管理ノ受託無盡會社ノ取締役、監査役若ハ支配人」ニ改ム

第三十八條中「又ハ清算人」ヲ「若ハ清算人又ハ第二十一條ノ六ノ規定ニ依ル管理ノ受託無盡會社ノ取締役、監査役若ハ支配人」ニ改ム

第三十九條第二項中「無盡會社ノ取締役及監査役」ヲ「無盡會社又ハ第二十一條ノ六ノ規定ニ依ル管理ノ受託無盡會社ノ取締役及監査役」ニ改ム

第四十條中「第五條第二項」ヲ「第五條第三項」ニ改ム

第四十一條 削除

附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第一條、第五條及第十條第一項第六號ノ改正規定施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

官報號外 昭和十六年二月十三日 貴族院議事速記録第十二號 無盡會社中改正法律案 第一讀會

第一條ノ改正規定施行ノ際現ニ金錢及有價證券以外ノ財産ノ給付ヲ爲ス無盡會社トスル者ハ同條ノ改正規定施行前ニ爲シタル無盡契約ニ付テハ之ガ完了ニ至ル迄其ノ契約ニ關スル業務ニ限り之ヲ繼續スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ第十六條、第二十二條乃至第二十五條、第三十五條、第三十七條、第三十八條及第四十二條ノ規定ヲ準用ス

第二項ノ場合ニ於テ無盡會社トスル者ガ同項ノ業務以外ニ無盡會社ヲ營ミタルトキハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第一條ノ改正規定施行ノ際迄一年以上引續キ他ノ事業ト共ニ金錢及有價證券以外ノ財産ノ給付ヲ爲ス無盡會社ヲ營ム會社ニ對シ無盡會社ノ免許ヲ爲ス場合ニ於テ主務大臣ハ五年内ノ期間ヲ定メ其ノ營ム他ノ事業ノ兼營ヲ認可スルコトヲ得

庶民金庫法第十七條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第十七條ノ二 庶民金庫ハ前條ノ業務ノ外無盡會社ノ預金ノ受入及無盡會社ニ對スル貸付ヲ併セ行フコトヲ得

（國務大臣河田烈君演壇ニ登ル）
○國務大臣（河田烈君） 只今議題ト相成リマシタ無盡會社中改正法律案提案理由ニ付御説明申上ゲマス、無盡會社ノ現狀ヲ見マサルニ、無盡會社ノ數ハ二百二十社ゴザイマスガ、其ノ無盡契約高ハ最近順調ナル増加ヲ繼續致シテ參ッテ居リマシテ、昨年未現在

ニ於キマシテ約三十億圓、融通金額九億圓ニ達シテ居リマス、會社ノ資産内容モ、以前ニ比較致シマスレバ頗ル改善セラレテ參ッテ居リマシテ、庶民金庫ノ爲活潑ナル活動ヲ致シテ居ルノデゴザイマス、併シナガラ無盡會社ヲシテ、時局ニ即應致シマシテ一層中小商工業者等ニ對スル金融ノ疏通ヲ圖リ、併セテ貯蓄獎勵、國債消化等ノ國策ニ寄與セシムル爲ニハ、會社ノ基礎ノ強化ヲ圖リマスルト共ニ、營業上ノ資金ノ運用方法ニ關シ、改善ヲ加フルコトガ緊要ト認メラレルノデゴザイマス、之ガ爲ニハ、無盡會社中資金運用ニ關スル制限ノ緩和ヲ圖リ、營業讓渡ノ方法ニ依ル無盡會社ノ合同、竝ニ庶民金庫トノ聯繫ニ關スル規定ヲ加ヘマスル等ノ改正ヲ爲スノ必要ガアルノデゴザイマスノデ、茲ニ本案ヲ提出致シマシタ次第ゴザイマス、何卒御審議ノ上御協贊ヲ與ヘラレムコトヲ希望致シマス

（高山書記官朗讀）
無盡會社中改正法律案特別委員
侯爵池田 宣政君 子爵牧野 康熙君
男爵東久世秀雄君 入江 貫一君
三井清一郎君 男爵關 義壽君
橋本圭三郎君 佐々木八十八君
古莊健次郎君

○假議長（公爵德川團順君） 日程第二、國家總動員法中改正法律案 第一讀會

國家總動員法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、星野國務大臣

國家總動員法中改正法律案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和十六年二月八日

衆議院議長 小山 松壽
貴族院議長 伯爵松平賴壽殿

國家總動員法中改正法律案
第五條中「又ハ地方公共團體」ヲ「地方公共團體又ハ政府ノ指定スル者」ニ改ム

第六條中「若ハ解雇」ノ下ニ「就職、從業若ハ退職」ヲ加ヘ「賃金其ノ他ノ勞働條件」ヲ「賃金、給料其ノ他ノ從業條件」ニ改ム

第八條中「總動員物資」ヲ「物資」ニ改ム

第十條中「使用又ハ收用スルコトヲ得」ヲ「使用若ハ收用シ又ハ總動員業務ヲ行フ者ヲシテ之ヲ使用若ハ收用セシムルコトヲ得」ニ改ム

第十一條中「資金ノ運用」ヲ「資金ノ運用、債務ノ引受若ハ債務ノ保證」ニ改ム

第十三條第三項中「土地又ハ家屋其ノ他ノ工作物ヲ管理、使用又ハ收用スルコトヲ得」ヲ「土地若ハ家屋其ノ他ノ工作物ヲ管理、使用若ハ收用シ又ハ總動員業務ヲ行フ者ヲシテ之ヲ使用若ハ收用セシムルコトヲ得」ニ改ム

第十四條中「使用又ハ收用スルコトヲ得」ヲ「使用若ハ收用シ又ハ總動員業務ヲ行

國家總動員法中改正法律案 第一讀會

フ者ヲシテ特許發明及登錄實用新案ヲ實施セシメ若ハ鑛業權、砂鑛權及水ノ使用ニ關スル權利ヲ使用セシムルコトヲ得」ニ改ム

第十五條中「前二條ノ規定ニ依リ」ノ下ニ「政府」ヲ、「十年内ニ拂下ゲルトキ」ノ下ニ「又ハ第十三條第三項ノ規定ニ依リ

總動員業務ヲ行フ者ノ收用シタルモノノ收用シタル時ヨリ十年内ニ不用ニ歸シタルトキ」ヲ加フ

第十六條ノ二 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ事業ニ屬スル設備又ハ權利ノ讓渡其ノ他ノ處分、出資、使用又ハ移動ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十六條ノ三 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ事業ノ開始、委託、共同經營、讓渡、廢止若ハ休止又ハ法人ノ目的變更、合併若ハ解散ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十七條中「總動員業務タル」ヲ削ル
第十八條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ同種若ハ異種ノ事業主又ハ其ノ團體ニ對シ當該事業ノ統制又ハ統制ノ爲ニスル經營ヲ目的トスル團體又ハ會社ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ命令ニ依リ設立セラルル團體ハ法人トス
第一項ノ規定ニ依リ設立ヲ命ゼラレタ

ル者其ノ設立ヲ爲サザルトキハ政府ハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第一項ノ團體成立シタルトキハ政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ當該團體ノ構成員タル資格ヲ有スル者ヲシテ其ノ團體ノ構成員タラシムルコトヲ得

政府ハ第一項ノ團體ニ對シ其ノ構成員（其ノ構成員ノ構成員ヲ含ム以下之ニ同ジ）ノ事業ニ關スル統制規程ノ設定、變更若ハ廢止ニ付認可ヲ受ケシメ、統制規程ノ設定若ハ變更ヲ命ジ又ハ其ノ構成員若ハ構成員タル資格ヲ有スル者ニ對シ團體ノ統制規程ニ依ルベキコトヲ命ズルコトヲ得

第一項ノ團體又ハ會社ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條ノ二 第十六條ノ二ノ規定ニ依リ設備若ハ權利ノ讓渡若ハ出資ヲ命ジ又ハ第十六條ノ三ノ規定ニ依リ事業ノ讓渡ヲ命ジタル場合ニ於テ讓渡者又ハ出資者ノ負擔スル債務ノ承繼及其ノ擔保ノ處理ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條ノ三 第十六條ノ二ノ規定ニ依リ設備若ハ權利ノ讓渡若ハ出資、第六條ノ三ノ規定ニ依ル事業ノ讓渡若ハ法人ノ合併又ハ第十八條第一項若ハ第三項ノ規定ニ依リ設立セラルル團體若ハ會社ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ課稅標準ノ計算ニ關スル特例ヲ設ケ又

ハ租稅ノ減免ヲ爲スコトヲ得
第十九條中「又ハ加工賃」ヲ、「加工賃、修繕料其ノ他ノ財産的給付」ニ改ム

第二十七條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第八條、第十條、第十三條、第十四條若ハ第十六條ノ二ノ規定ニ依ル處分、第九條ノ規定ニ依ル輸出若ハ輸入ノ命令、第十一條ノ規定ニ依ル賃金ノ融通、有價證券ノ應募、引受若ハ買入、債務ノ引受若ハ債務ノ保證ノ命令、第十六條ノ規定ニ依ル設備ノ新設、擴張若ハ改良ノ命令又ハ第十六條ノ三ノ規定ニ依ル事業ノ委託、讓渡、廢止若ハ休止若ハ法人ノ目的變更若ハ解散ノ命令ニ因リ生ジタル損失ヲ補償ス但シ第二項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十八條 總動員業務ヲ行フ者ハ第十條、第十三條第三項又ハ第十四條ノ規定ニ依リ使用、收用又ハ實施ヲ爲ス場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ニ因リ生ジタル損失ヲ補償スベシ

第二十九條中「拂下」ヲ「買受」ニ改ム

第三十一條ノ二 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ十年以下ノ懲役又ハ五萬圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第八條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者
二 第十九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第三十三條中第二號及第六號ヲ削リ第三號ヲ第二號トシ以下順次一號ツツ繰上ゲ

第三十四條中第三號ヲ第五號トシ以下順次二號ツツ繰下ゲ第二號ノ次ニ左ノ二號ヲ加フ

三 第十六條ノ二ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者
四 第十六條ノ三ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第三十五條中「前三條」ヲ「前四條」ニ改ム
第三十八條第一號中「組合」ヲ「團體又ハ會社」ニ改メ同條中第二號ヲ第三號トシ第三號ヲ第四號トシ第一號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

二 第十八條第六項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第四十五條ニ左ノ一項ヲ加フ
第十八條第一項又ハ第三項ノ規定ニ依リ事業ノ統制ヲ目的トシテ設立セラルル團體又ハ會社其ノ他本法ニ依ル命令ニ依リ統制ヲ爲ス法人其ノ他ノ團體ノ役員若ハ使用人又ハ其ノ職ニ在リタル者其ノ業務執行ニ關シ知得シタル法人又ハ人ノ業務上ノ秘密ヲ漏泄又ハ竊用シタルトキ亦前項ニ同ジ

第四十六條第一項中「設立シタル組合ノ役員其ノ職務」ヲ「事業ノ統制ヲ目的トシテ設立セラルル團體又ハ會社其ノ他本法ニ依ル命令ニ依リ統制ヲ爲ス法人其ノ他ノ團體ノ役員又ハ使用人其ノ擔當スル統制事務」ニ改ム

第四十八條中「第三十二條」ヲ「第三十一條ノ二」ニ改ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(國務大臣星野直樹君演壇ニ登ル)

○國務大臣(星野直樹君) 只今議題トナリマシタ國家總動員法中改正法律案ニ付提案ノ理由ヲ説明申上ゲマス、支那事變ノ推移竝ニ國際情勢ノ變轉ニ伴ヒ、皇國ハ目下未曾有ノ重大時局ニ際會致シテ居ルノデアリマス、此ノ緊迫セル内外ノ情勢ニ對處シ、眞ニ國家總力ノ發揮ニ遺憾ナキヲ期シ、皇國國策ノ遂行ヲ圖リマスル爲ニハ、國家總動員態勢ヲ更ニ一層強化整備致サナケレバナリマセス、國家總動員法改正ノ趣旨ハ、全ク茲ニ存スルノデアリマス、國家總動員法ハ、去ル昭和十三年五月施行以來、時局ノ推移ニ伴ヒ、逐次之ヲ發動シテ參々ノデアリマシテ、既ニ之ニ關スル幾多ノ法規ノ實施ヲ見タノデアリマス、同法ハ、今日迄ニ於ケル其ノ實施ノ經驗ニ鑑ミ、若干不備ノ點ヲ修正スルノ必要ヲ認メラレノデアリマスルガ、今回改正ノ主眼トスル所ハ、現下皇國ヲ繞ル國際關係ノ急迫セル情勢、竝ニ列國ニ於ケル總動員態勢強化ノ實情ニ應ジ、之ニ備ヘテ國家總動員態勢ノ徹底的ナル強化整備ヲ圖リ、一朝有事ノ際ニ於テハ、如何ナル事態ノ變化ニ對シテモ敏速機宜ノ措置ヲ講ジ得ルノ態勢ヲ整ヘントスルニ在ルノデアリマス、改正ノ要點ハ、統制スベキ物資及ビ業務ノ範圍ヲ擴大シ、事業ノ強化及生産ノ増強ニ關スル規定ヲ整備擴充シ、金融統制ノ規定ヲ擴張シテ、必要ノ

場合ニ於ケル金融ノ圓滑ナル運営ヲ確保シ、又惡質ノ犯罪ニ對スル罰則ヲ強化整備スル等デアリマス、本改正ニ依リ國家總動員ノ法的基礎ハ一層完備セラレ、何時如何ナル事態ニ遭遇スルモ、毅然トシテ之ニ對處シ得ベキ態勢ガ確立サレル次第デアリマス、而シテ國家總動員法ノ内容ハ、人員、物資、設備、事業、資金等各般ノ事項ニ互リ、國民生活ニ大ナル關係ヲ有シマスルノデ、政府ハ之ガ運用ニ付テハ、特ニ慎重ナル考慮ヲ拂ヒ、苟モ法條ノ濫用ニ陥ルコトナキヲ期スルハ勿論デアリマスルガ、眞ニ必要アル場合ニ於キマシテハ、躊躇スル所ナク本法ヲ活用シ、以テ國家總力ノ發揮ニ邁進スル所存デアリマス、時局重大ノ際何卒十分御審議ノ上、速カニ協賛ヲ與ヘラレムコトヲ切望スル次第デアリマス

○假議長(公爵徳川順順君) 質疑ノ通告ガゴザイマス、赤池濃君

(赤池濃君演壇ニ登ル)

○赤池濃君 只今星野國務大臣ハ洒々落落タル心境ヲ以テ、恰モ行雲流水ニ對スルヤウナ態度デ、本案ノ御説明ガアリマシタノデアリマス、本案ハ發布以來、所謂臨時措置法ト相俟チマシテ、僅カ三年位ノ間ニ於テ檢舉サレル者ヲ出スコト茲ニ九十二萬餘、如何ニ民衆ニ大キナ打撃ヲ與ヘタカ、國民ノ精神上ノ打撃ハドウデアラウカ、延イテハ産業精神ニモ及ンデ居リマセウシ、又財界ノ點カラ見マシテモ、株ノ値下リダケデモ百數十億ト傳ヘラレテ居ル際ニ、之ガ爲ニ生産擴充ニドレ位障碍ヲ及シタカ、即チ國民ニ對シ、國家ニ對スル所ノ損害ガ非常ニ大キナル所ノ此ノ案ニ關シマシテ、企畫院總裁ハ一言ノ御挨拶ガアツテ然ルベキカト存ジマス、ト申シマスモノハ、此ノ法案ハ失敗ニ歸シタト云フコトヲ週報ニ於テ明言サレテアツテ、其ノ理由ハ、官吏ノ技術ノ拙劣デアアルコトト、法自體ガ惡カッタト云フコトヲ言ハレテ居ル以上ハ、之ニ對シテ儀禮ト致シマシテモ何カ一應ノ御挨拶ガアツテ然ルベキガト思フノデアリマス、又國務大臣ト致シマシテハ、此ノ位國家ニ大影響ヲ與ヘタモノニ對シマシテハ、輔弼ノ責任ノ觀念カラ以テマシテモ、眞ニ恐懼ニ堪ヘナイ心持ヲ此ノ議場ニ於テ御發表ニナツテ、即チ赤誠ヲ吐露サレルコトガ私ハ至當カト存ジマス、之ニ對シテ一言ノ御挨拶モナイト云フコトハ、サウシテ恰モ無關心デアラレルヤウナ風ノ動靜ヲ示サレルコトハ、私ト致シマシテハ如何ニモ遺憾千萬ダト思フノデアリマス、茲ニ本案ニ對スル質疑ヲ致スニ先ダチマシテ、千萬無量ノ思ヲ以テマシテ茲ニ遺憾ノ意ヲ表シテ置キマス、本改正案ハ議會ノ二大職務ノ一タル 陛下ノ立法權ニ協賛シ奉ル職務ヲ、政府ニ讓ルモノデアリマシテ、議會カラ言ヘバ職務拋棄デ、憲法上ノ大問題デアリマス、政府ハ天下ニ向ッテ職能奉公ヲ強調スルニモ拘ラズ、議會ニ對シテハ其ノ職務ヲ拋棄セヨト迫ルノハ、言行ノ相一致セザルコトヲ示スノデアリマシテ、嘆カハシイ極ミデアリマス、質問ノ第一點

ハ、此ノ改正案ノ理由ヲ詳細ニ説明願ヒタイコトデアリマス、就テハ少シク所見ヲ述ベテ、御答辯ノ御參考ニ供シタイノデアリマス、只今議會ニ課セラレタル任務ハ、改正案ノ要否ヲ審議スルニアルノデアリマスルガ、改正案ノ可否ト云フモノハ、總動員法其ノモノガ是ナルカ非ナルカニ依ッテ決セラレ、コトガ多キガ故ニ、檢討ハ勢ヒ總動員法其ノモノニ及バザルヲ得ナイノデアリマス、仍テ聊カ總動員法ニ對スル疑ヲ申述ベテ、政府ノ御所見ヲ伺ヒタイノデアリマス、殊ニ只今御説明ニモアル如ク、政府ハ本案提出ノ理由ノ一ツトシテ、列國ニ於ケル總動員態勢強化ノ實情ニ照シ云々ト述ベラレテ居リマシテ、恰モ外國ガ總動員態勢ヲ強化スルカラ、我が國モ亦總動員法ヲ強化シナケレバ、一朝有事ノ際シ機宜ノ措置ヲ講ジ得ラレナイヤウニ説明サレテ居ルノデアリマス、古ノ兵家ハ、彼ヲ知り己ヲ知レバ百戰必ズ敗ル、彼ヲ知らズ己ヲ知ラザレバ百戰必ズ敗ル、ト戒メテ居ルノデアリマスルカラシテ、此ノ際外國ノ總動員態勢ヲ檢討シ、彼ト我トヲ比較研究スルコトハ、此ノ際最モ必要ナルモノト信ジマス、外國ニ於キマシテハ、此ノ種ノ法令ヲ授權法ト總稱シテ、獨裁的權力ノ授與ヲ内容ト致シテ居リマス、此ノ種ノ獨裁權ヲ先ヅ事實上掌握シタモノハ、ソ聯ノ當局者デアリマシテ、「レーニン」ガ其ノ開山デアリマス、法令ヲ以テ授權ヲ明カニシタモノハ、「イタリ」ガ始リデ、ソレハ確カ九百二十六

年頃ト記憶シマス、次ハ「ドイツ」デ、千九百三十三年ニ授權法ヲ制定サレマシテ、其ノ後二、三回ノ修正ニ依ツテ益、其ノ權限ガ擴張サレ、次デ「スペイン」ノ「フランコ」政權、「フランス」ノ「ペタン」政權ガ之ヲ模倣シテ居リマス、近來ハ「アメリカ」ノ「ルーズヴェルト」モ切ニ各種ノ權限授與ヲ議會ニ要求シテ居リマス、而シテ外國ノ授權行為ヲ通覽シマスレバ、茲ニ一貫セル共通ノ點ガアルノデアリマス、ソレハ元首若シクハ首長其ノ人ニ對シテ權限ヲ與ヘルコトデアリマシテ、對人的信任ガ其ノ骨子トナツテ居リマス、換言スレバ「ムッソリニー」、「ヒットラー」、「フランコ」、「ペタン」、「ルーズヴェルト」ト云フ元首若シクハ首長ヲ信ジテ授權スルモノデアリマシテ、決シテ政府其ノ他ノ機關ニ對シテ與ヘタモノデアリマセヌ、機關ニ對シテ與ヘタモノデアリマセヌ、是ガ歐米ノ授權法ノ特長デアリマスルシ、又眼目デアリマス、而シテ授權ノ内容ハ何カ、國ニ依ツテ差異ハアリマスルガ、之ヲ要スルニ我ガ 天皇ノ大權ニ類似スルモノデアリマス、茲ニ大權ト申シマスルハ學者ノ所謂憲法上ノ大權ヲ申スノデアリマス、察スルニ彼等ハ我ガ國體ヲ慕ヒ、我ガ 天皇ノ大權ヲ羨ミ、我ヲ師トシ、我ヲ範トシテ、自分モ亦斯様ナ權限ヲ掌握セムトシタルモノデアリマセウ、若シ其ノ推測ニシテ誤リナクンバ、我ガ憲法ハ各國ニ其ノ範ヲ示シタモノデアリマス、殊ニ考ヘネバナラヌコトハ、「イタリー」ヲ除クノ外、「ソ」聯、

「ドイツ」、「スペイン」、「フランス」ハ何レモ革命ノ後デアリマス、戰敗後、戰ヒ敗レタ後デアリマス、若シ其ノ儘ニ推移シタナラバ、永久奈落ノ底ニ沈淪シテ只管滅亡ノ一途ヲ辿ルヤウナ勢情ニアッタノデアリマス、其ノ國情ノ慘澹タル點ニ於テハ、「イタリー」モ亦是等諸國ト大同小異デアリマシタ、此ノ時ニ方リ「ムッソリニー」、「ヒットラー」ノ如キ英雄ガ起ツテ回天ノ偉業ヲ成就シ、暗黒ヲ化シテ光明ト爲シ、頓ニ國運ヲ隆盛ニシテ全世界ヲ驚カシタノデアリマス、國民ガ狂喜シテ之ヲ推戴シ、獨裁的權限ヲ與ヘタト云フコトハ、少シモ怪シムベキモノデナイ、寧ろ自然ノ成リ行キト申シテ差支ナイト思フ、又「ムッソリニー」、「ヒットラー」ガ廣汎ナル權限ヲ要求シタノハ、決シテ無理デハアリマセヌ、彼等ハ齊シク草莽ヨリ起ツタ英雄デアリマシテ、何レモ一介ノ平民、生レナガラニシテ何等一般人ト異ル資格ハ何一ツ持ツテ居リマセヌ、故ニ國政ヲ變理スル爲ニハ是非授權ヲ要求セザルヲ得ナイノデアリマス、「フランコ」、「ペタン」、「ルーズヴェルト」ノ諸氏モ亦此ノ點ニ於テハ何レモ同様デアリマス、從ツテ歐米諸國ニ於ケル授權ハ、何レモ非常時ニ於ケル機宜ノ措置トシテハ百「パーセント」正當デアリマス、然リト雖モ「ムッソリニー」、「ヒットラー」ノ諸氏ハ、此ノ權限ヲ握ルニ付テハ隨分苦心モシ、苦勞モシ、相當ノ工作ヲシタノデアリマス、即チ先ツ議會ヲ改造シテ、其ノ同志ヲ以テ議會ヲ構成シ、意ノ儘ニ議會ヲ操縱

シ得ルヤウニシテ、合法的ニ授權法ヲ通過サセ、獨裁權ヲ獲得シタノデアリマス、即チ授權ト議會改造トハ微妙不思議ノ關係ヲ持テ居ルノデアリマス、回顧スレバ昨年ノ秋翼贊會ノ華ヤカナリシ頃……當時ハ翼贊會トハ申シマセヌデシタガ、翼贊會華ヤカナリシ頃、衆議院議員選舉法ト貴族院令ノ改正ガ力説サレマシテ、殊ニ議員候補者ハ翼贊會ノ公認ヲ得ヨトサヘ唱ヘラレタノデアリマシタ、私ハ當時外國ノ事例ヲ追想致シマシテ、日夜憂慮ニ堪ヘナイモノガアツタノデアリマスガ、今ヤ斯クノ如キハ全ク杞憂ト化シテ、殆ド世人ノ記憶カラ消エタコトハ、實ニ感慨無量ノ感ヲ致シマス、惜「ムッソリニー」、「ヒットラー」ノ諸氏ガ是等ノ工作ガアツタニモ拘ラズ、國民ガ爲ニ是等ノ獨裁者ヲ信賴シ、期待ヲ大ニシテ居ルモノハ何デアリマセウ、異昔彼等ガ國家ヲ以テ自ラ任ジ、恰モ責任ノ權化ノ如ク、眞劍ニ其ノ責任ニ任ズルカラデアリマセウ、故ニ授權ト責任トハ密接不可分ノ關係ニアルト存ジマス、齟齬テ我ガ國ヲ見ルニ、萬世一系ノ皇位、上ニアリ、開闢以來革命ノ如キハ其ノ影ダニモナク、億兆悉ク皇德ヲ仰ギ奉ツタコト茲ニ二千六百一年、 天皇ノ統治權及大權ハ儼トシテ憲法ニ規定サレ、大權御行使ノ方法モ亦憲法ノ條規ニ依ルコトハ明カニ規定サレテ居ルノデアリマス、即チ行政ハ政府ヲシテ、司法權ハ裁判所ヲシテ行ハセラレ、立法ハ議會ヲシテ協贊セシメラル、ノデアリマス、從ツテ一ノ機關ノ職

務ヲ他ノ機關ニ讓ルガ如キハ異例ノ極ミデアリマス、且外國ノ授權行為ト一見相類スルガ如クニシマシテ全ク異ル性質ノモノデアリマス、彼ニアツテハ對人信用ニ基ク獨裁權ノ授與、我ニアツテハ一機關ヨリ他ノ機關ヘノ權限讓渡、職務拋棄デアリマス、元來例外ノ規定ハ出來得ル限り之ヲ縮小ヲシテ取扱フベキニモ拘ラズ、今回之ガ大擴張ヲ爲シ、總動員法ヲ強化セムトシ、ソレモ普通ノ強化デハナク、所謂經濟新體制ヲ法文化シテ、總動員法ノ性質其ノモノニ一大變化ヲ與ヘムトスル大改革デアリマス、斯クノ如キコトハ如何ナル理由ニ依ルノデアリマセウカ、詳細ニ御説明ヲ願ヒタイリマス、是ガ質問ノ第一點デアリマス、次ニ伺ヒタイノハ、總動員法改正案ニ示サレタ事項ハ、之ヲ議會ノ衆議ニ付スレバ機宜ヲ失スルト云フ御意見デアリマスルカドウカ、是ガ質問ノ第二點デアリマス、第三ニ伺ヒタイノハ、所謂委任命令ニ對スル政府ノ御所見デアリマス、昭和十三年ニ總動員法ガ制定セラレ、尙其ノ前昭和十二年ニ輸出入品等ニ關スル臨時措置法、詳シク申シマシタナラバ輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律、ガ制定サレマシテ、爾來此ノ二ツノ法律ニ基イテ數百ノ法令ガ制定發布セラレマシタ、茲ニ數百ト申シマスルガ、私ガチヨット計算シタ所ニ依リマスト約三百三十件バカリアリマス、此ノ正確ナ數ヲ知リタイ爲ニ政府ニ其ノ計數ノ調査ヲ願ヒマシタ處ガ、マダ御回答

ガアリマセス、デ暫ク數百ト申シテ置キマ
ス、是等ノ委任命令ハ概ネ抜打的ニ發布サ
レマシタ爲ニ、迅雷疾風耳ヲ蔽フニ違ナ
ク、當時國民ハ茫然トシテ我ヲ忘レテ居
ク、デアリマスルガ、嚴重ナル取締處罰ヲ受
クルニ及ンデ、泌々痛苦ヲ感ジテ我ニ還
ノデアリマス、是等ノ法令ハ一ツトシテ國
民ノ日常生活ニ關係セザルモノナク、悉ク
國家産業ノ盛衰ニ繫ルモノデアリニモ拘ラ
ズ、慎重ナル調査研究ヲ以テ制定セラレタ
カドウカト云フコトニ付テハ、大ナル疑ガ
アルノデアリマス、例ヘバ國民徵用令ノ如
キ、施行勿々忽チニシテ二十六條ノ中十三條
ヲ改正サレテ居リマス、現ニ其ノ基本法タ
ル本法律案ノ如キモノモ、制定僅カニ三年
ヲ出デズシテ五十條ノ中二十五條、其ノ半
數ヲ改正セムトスルヤウナ狀況デアリマス、
又臨時輸出入許可規則ハ、四年間ニ十一回
ノ改正ヲ經テ居リマス、重要ナル法令ニシ
テ尙斯クノ如シ、他ハ推シテ知ルベシデア
リマス、朝令幕改トハ正シク此ノ謂デアリ
マセウ、又輸出入品等ニ關スル臨時措置法
ニ基イテ、鐵石炭ニ關スル省令ヲ出スノハ
兎モ角ト致シマシテ、木炭配給統制規則ガ
發布サレテ居ルノデアリマスガ、是等ハ明
カニ委任命令ノ範圍ヲ逸脱シテ居ルモノデ
アリマス、換言スレバ政府ノ越權行爲デア
ルト存ジマス、政府ハ斯クノ如キコトヲシ
テ宜シイノデアリマセウカ、加之、是等汗
牛充棟モ雷ナラザル所ノ法令ハ、相互抵觸
スルモノアリ、又文字曖昧且難澁ニシテ解

シ難キモノガアル爲ニ、民ハ適從スル所ニ迷
ヒ、裁判所ハ判決スルニ苦シンデ居ル情勢
デアリマス、蓋シ法令ノ規定多クハ實情ニ
難ニ陷ラザルヲ得ナカッタノデアリマセ
ウ、我等ハ先ヅ立法的技術ノ點カラシテ、
是等ノ委任命令ノ體裁ノ整ハザルヲ見、次
ニハ其ノ内容ノ實情、民情ニ副ハザルコト
ヲ……合セザルモノアルヲ見、更ニ經濟界
ノ急激ナル變化ヲ來シ、人心ヲ極度ニ混迷
サセツ、アル現狀ヲ見テハ、感慨實ニ無
量ナルモノガアリマス、若シ議會方總動員
法ヲ議決シナカッタラバ、此ノ種ノ委任
命令ハ出ナカッタラウカトモ思ハレマス、
只管其ノ責任ヲ痛感シテ居ル次第デア
リマス、古人ハ曰フ匹夫責有リト、況ヤ議
員ニ於テヤデアリマセウ、政府ハ此ノ委任
命令ニ對シ如何ナル御考ヲ有シテ居ラル、
カ、換言スレバ之ヲ此ノ儘放任サレル御
積リデアアルカ、將又大整理、大改善ヲ加ヘ
ラレル御積リデアアルカ、是ガ質問ノ第三
點デアリマス、次ニ伺ヒタイノハ、此ノ改正
案ハ大抵「何々スルコトヲ得」ト規定サレテ
居ルノデアリマス、政府ハ此ノ際規定シ得
ル權限ヲ獲得スルニ止メ、當分立法セザル
御積リデアリマセウカドウカ、即チ計畫經濟
ハ「マルクス」主義ト何處方違フカト云フ疑
惑ノ甚ダシイ今日ニ於テ、此ノ區別ガ明カ
ニナル迄新ナル立法ヲ猶豫サル、御積リ
デアアルカドウカ、是ガ質問ノ第四點デアリ
マス、最後ニ伺ヒタイノハ處罰ニ付テデア

リマス、改正案ノ特徴ノ一ハ罰則ヲ嚴且ツ
重ニシタコトデアリマス、斯カル嚴罰重刑
ヲ以テシナケレバ、計畫經濟ハ實行スルコ
ト能ハズト云フ御所見デアリマセウカドウ
カ、先程申シマシタ如ク此ノ總動員法並ニ臨
時措置法ガ發布サレテ以來僅カニ四年デア
ルニモ拘ラズ、檢舉ノ總數ガ九十二萬有餘、
處罰十二萬餘、古來幾多ノ法律ガ制定セラ
レマシタケレドモ、斯クノ如ク多數ノ犯罪
者ヲ短日月ノ中ニ出シタモノハ未ダ曾テ見
ヌノデアリマス、先達テ平沼內務大臣ハ、
刑ノ極致ハ刑無キヲ期スト云フコトヲ仰シ
ヤッタノデアリマス、誠ニ其ノ通りデアリマ
ス、然ラバ今日ノ急務ハ、是等ノ法律ノ妥
當性、是等ノ法律ノ妥當性ヲ嚴重ニ吟味ス
ベキデアリマス、計畫經濟ヲ遂行スルニハ是非
是等ノ罰則ヲ以テシナケレバナラス、是デ
モ未ダ足ラズト考ヘテ居ラル、ノデアリマ
セウカ、ソレトモ何カ別ニ深謀遠慮ガ御有
リニナルノデアリマセウカ、而シテ一方民
ヲ罰スルニ對シ、官吏ノ制裁ハドウナッテ居
ルノデアリマセウカ、官吏ノ制裁ハドウサ
レル御積リデアリマセウカ、總動員法實施
以來官權ハ著シク強化致シマシタ、官權強
化ハ兎角官權ノ濫用、官吏ノ橫暴ト續職ト
ヲ招キ易イノデアリマス、否昨今巷ニ於テ
ハ紛々トシテ色々ノ聲ガ聞エテ居リマス、
政府ハ之ニ對シテ如何ナル御用意ヲ持ッテ
居ラレマセウカ、今日迄信賞必罰ヲドノ位
厲行サレテ居ルデアリマセウカ、是ガ質問

ノ第五點デアリマス、以上ニ付謹シテ御答
辯ヲ願ヒマス
（國務大臣星野直樹君演壇ニ登ル）
○國務大臣（星野直樹君） 赤池サンノ御質
問ニ對シテ御答辯ヲ申上ゲマス、御質問ノ
第一點ト致シマシテ、本案改正ノ要旨ト云
フ點デゴザイマシタガ、此ノ點ハ先程モ申
上ゲマシタ通り現在ノ緊迫セル内外ノ情勢
ニ對應致シマシテ、一朝有事ノ際ノ爲ニ備ヘ
ヲ爲シ、又一朝有事ノ際ニ敏活ナル措置ヲ整
フル爲ニハ、現在ノ總動員法ニ於テハ尙之ニ
改善ノ餘地ガアルト考ヘマシテ、斯クノ如
キコトノ可能ナルヤウニ本法ヲ改正セント
スルモノデゴザイマシテ、全ク其ノ點ノミ
ガ其ノ改正ノ趣旨デゴザイマス、第二ノ點ト致
シマシテハ、議會ノ審議ニ付スレバ機宜ヲ失
スルト云フヤウニ政府ハ見テ居ルカト云フ
御質問ニ對シテハ、今日ノ事態ニ即シマシ
テ將來ノ變轉ト云フコトヲ考フル場合ニ於
キマシテハ、矢張り總動員法ノ施行ニ依リマ
シテ處置ヲ執ル方ガ、最モ國家ノ爲ニ有利デ
アルト云フコトノ確信ノ下ニ、本法ノ改正ヲ
致サントスル趣旨デゴザイマス、第三ノ御質
問ノ點ハ、數百ノ法令、總動員法並ニ其ノ他
ノ法律ニ基キマスル數多ノ委任命令、是等
ノモノニ對シマシテ從來幾多ノ改正ヲ行ッテ
來タガ、之ニ對シテ徹底的ノ大改正ヲ行フ
意思ハナイカト云フ御質問ト拜察致シマシ
タ、今日ノ變轉セル事態ニ即應スル爲ニ諸
般ノ法律ノ出ルコトハ事實デゴザイマシテ、
是ハ又時勢ノ段々ノ變化ニ伴ヒマシテ、ソ

レゾレ之ニ適應スルヤウニ改正ヲ行フヤウニセネバナラヌト思ヒマス、併シナガラ是等ノ法令モ、漸次官民ノ間ニ慣熟シテ居ルモノモアルト思ヒマスガ、將來ニ於キマシテモ、尙相當改善スベキモノニ付キマシテハ之ニ對シテ躊躇ナク改善ヲ致シマシテ、以テ今日ノ國難突破ニ適應スルヤウナ態勢ヲ整ヘルコトヲ考量シテ居リマス、第四ノ點ト致シマシテ、茲ニ各法條ハ「スルコトヲ得」ト云フヤウニ規定シテ居リマスルガ、是ハイツ發動スルカ、或ハ之ガ發動ヲ延バシ意思ハナイカト云フ御質問デアラウト思ヒマス、是等ノ條項ニ付キマシテハ、ソレゾレ之ヲ發動スル必要ノアリマスル場合ニ於キマシテハ、ソレノ所定ノ手續ヲ執リマシテ之ヲ發動致ス積リデゴザイマス、第五ニ今回罰則ノ強化、斯クノ如キ罰則ノ強化ガナケレバ今日ノ計畫經濟ノ遂行ガ出來ナイカト云フ御話デゴザイマス、是ハ質問ノ御冒頭ニ御話ニナリマシタ點ト關聯モ致シテ居リマスルガ、一方ニ於テ斯クノ如キ專態ニ對處スル爲ニ總動員法ノ發動ヲ致シマシテ、各般ノ法規ヲ制定致シタノデゴザイマスガ、之ガ爲ニ國力ノ増強ニ、又戰時體制ノ整備ト云フコトニ寄與致シマシタコトハ甚大デアラウト思ヒマスガ、又半面ニ於キマシテハ、是等ノ諸法規ノ爲ニ此ノ違反ノ罪ニ問ハレル國民ノ多數ガアルト云フコトニ付キマシテハ、私達職ニ在ル者ト致シマシテ誠ニ身ヲ斬ラレルヤウナ思フ致シテ居ルノデアリマス、デアリマスカラ成ルベ

ク罪ノ如キハ輕クシ、輕減スルト云フコトヲ望ンデハ居リマスガ、併シナガラ本法ノ違反ノ中ニハ、隨分大規模ノモノモゴザイマスシ、相當惡質ナモノモゴザイマスルノデ、ソレ等ニ對シマシテハ、現在ノ法條ヲ以テシテハ尙不十分ト考ヘマシテ、ソレ等ノ惡質大規模ノモノノ處置ガ出來マスヤウニ、本法ノ罰則ニ對シテ一部分ノ強化ヲ行フタ次第デゴザイマス、心持ト致シマシテハ、出來ルダケ罰則其ノ他ノモノノ適用ナク、本法ガ完全ニ國民ノ協力ヲ得テ實施セラレムコトヲ衷心望ンデ居ル次第デゴザイマス、尙最後ニ總動員法ノ強化ニ伴ヒマシテ官吏ノ責任、重大デアアルト云フコトニ付テノ切々タル御話ヲ承リマシテ、誠ニ同感ノ至デゴザイマス、固ヨリ官吏ハ左ナクトモ非常ナル責任ヲ持テ居ル譯デゴザイマスガ、殊ニ總動員法ノ如ク非常ナル權力ヲ與ヘラレタ場合ニ於キマシテハ、其ノ職責愈、重大ナルモノデゴザイマシテ、苟モ法條ノ濫用ニ陥ルコトナク、不當ナル適用ヲスルコトノナイヤウニ、何處迄モ慎ンデ行カナケレバナラヌト思ヒマス、又是ニ對シテ不當ナル處置、濫用ト云フヤウナコトガアリマシタ場合ハ、之ニ對シテ十分信賞必罰ノ處置ヲ明カニシテ行カナケレバナラヌコトハ當然ノコトト思ヒマス、從來ニ於キマシテモ、此ノ點ニ於キマシテハ十分分努力ヲ致シテ居リマスガ、更ニ將來ニ於キマシテハ一段ノ努力、一段ノ意ヲ茲ニ用ヒルト云フコトヲ深く考ヘテ居ル次第デゴ

ザイマス、以上ヲ以チマシテ簡單ニ先程ノ御質問ニ對スル御答辯ト致シマス

〔赤池濃君演壇ニ登ル〕

○赤池濃君 只今星野大臣ヨリ、此ノ法案ハ時局ノ急ニ應ズル爲ニト云フ御話ガアリマシタ、他人カラ承リマスルナラバ私ハソレヲサウデアリマスカト直グ其ノ儘承ケ容レタイノデアリマスガ、星野君ノ口カラ出マスト云フト聊カ疑惑ヲ感ジナケレバナラナイ次第ガアリマス、ト申シマスノハ外デモアリマセヌ、私ハ先達テ山本勝市ト云フ經濟學博士ノ著書ヲ見マシテ熱感シタノデアリマスガ、此ノ人ハ初メハ「マルキスト」デアリマシテ、後ニ「マルクス」ノ非ヲ覺テ、二十年間「マルクス」ノ研究ニ没頭シテ、サウシテ貴重ナ著書ヲ出シタノデアリマス、其ノ人ノ著書ニ依リマスト云フト、斯ウ云フヤウナコトガ書イテアルノデアリマス、即チ計畫經濟、統制經濟ト云フモノハ、今ニ始ツタコトデナク、昭和七八年ノ頃ニ最モ華ヤカニ論争サレタモノデアリマシテ、ソレガ順次法制化シテ居ル所ノ經過ヲ示スノデアリマス、其ノ山本君ノ著書ノ中ニハ斯ウ云フコトガ書イテアルノデアリマス、是ハ「マルキスト」ガ言ツタ「昭和八年ハ統制經濟、計畫經濟デ暮レ、昭和九年ハ又統制經濟、計畫經濟デ年ガ明ケルヤウナ氣ガスル」ト、「マルキスト」ガ先ツ自ラ祝ウテ居ルノデアリマス、加之、當時民有民營式ノ統制經濟ガ盛デアッタニ對シテ、ソレヲ攻撃シテ彼等ハ曰ク「元來、一元の統制經濟ヤ計畫

經濟ナルモノハ、其ノ目的ヲ貫カウトスレバ、私有財産ヲ否認シナイ限り不可能デアツテ、私有財産制度ノ基礎ノ上ニ統制經濟ヲヤレバ、利潤ノ追求ト國家計畫トノ間ニ矛盾ヲ來シ、經濟界ハ却テ混亂ヲ來スカラ、ソレハ結局夢デアツテ實行出來ナイ云々」ト言ツテ居ルノデアリマス、此ノ論斷ハ、先達テ當壇デ紹介シマシタ十二月二十五日ノ週報所載ノ企畫院ノ新體制失敗ノ評論ト、全く同一デアアルノデアリマス、我々ハ之ヲ讀ンデ殆ド同ジ人ノ筆ニナツタカト訝カル位デアリマス、今回經濟新體制要綱ガ發表サル、ヤ、「マルキスト」ハ此ノ點ヲ力説致シマシテ、新聞雜誌ニ非常ニ異常ナ評論ヲ加ヘテ居リマシテ、此ノ政策要綱ノ脱皮ヲ要望シテ居ル、脱皮、即チ皮ヲ脱グ、脱皮ナドト云フコトハ、是ハ爬蠱類ニ言フコトデアリマスガ、不幸ニシテ脱皮々々ト謂フ、皮ヲ脱ケルト云フコトガ當世ノ流行語ニナツテ居ルガ、此ノ脱皮ヲ要求シテ居ルノデアリマス、是ハ皆サン周知ノコトデアリマス、即チ計畫經濟ナルモノハ今ニ始ツタコトデナク、昭和七八年ノ頃カラシテ盛ニ議論サレテ居ツタモノデアリマシテ、今急ニ戰爭ダカラ之ヲヤルト云フ風ノモノデハナイト思ヒマス、無論昭和七八年頃ニ於キマシテハ計畫經濟ト云フ言葉ハマダアリマセヌデシタ、併シナガラ統制經濟ト云フ言葉ガ問題トナツテ、ソレニ對スル統制經濟ガ學界ノ流行語ニナツテ居リマシテ、ソレニ對スル所ノ色々ノ評論ガ「マルキスト」カラ放ラレテ

居ッタノデアリマス、結局「マルクス」派ガ其ノ當時主張シタコトハ、統制經濟ノ缺點ヲ指摘シマシテカラ、結局計畫經濟ニシテケレバナラス、彼等ハ總テ經濟ノコトハ統制經濟カ計畫經濟カ、此ノ二ツ以外ニハナイモノダト問題ヲ限定シテ置イテ、甲デナケレバ乙デアル、斯ウ云フ筆法盛シニ統制經濟ヲ論究シテ計畫經濟ヲ主張シタモノデアリマス、此ノ點ガ間違ッテ居ルノデアリマス、經濟ニハ統制經濟、計畫……チヨット間違ヒマシタ、彼等ハ同時ニモウ一ツハ、今迄ハ自由主義ノ經濟ダツタ、資本主義ノ經濟ダツタ、ソレガイケナイノダ、自由主義ノ統制經濟ノ議論ガ出テ來ル、「マルクス」派ハ統制經濟ハ計畫經濟ダト云フコトヲ言ッテ居ル、丁度「マルクス」派ニ於テハ、三ツノ經濟主義ノ外ニハナイヤウナ風ニ總テノコトヲ論評シテ居ルノデアリマス、是ハ先ヅ問題ヲ限定シテ、彼等ノ所謂自ラノ都合ノ好イ議論ニ導ク爲ノ方法デアリマシテ、先ヅ之ガ間違ッテ居ルノデアリマス、ケレドモ當時ノ大勢ハサウ云フヤウナ風ニ魅セラレテシマツテ、サウシテ自由主義經濟、資本主義經濟、ソレガ悪イカラ統制經濟、ソレデハマダ不十分デアアルカラ計畫經濟、斯ウ云フ風ノ三段論法ヲ論評サレテ來テ居ッタルデアリマス、是ハ學者ノ頭カラ出タ、「マルクス」ガ自分ノ説ヲ辯護スル爲ニ作ッタル論法デアリマシテ、ソレニ一般ノ人ガ率ヒラレテ來タト云フコトハ如何ニモ不思議ナ

話デアアルノデアリマス、又遺憾千萬デアツタノデアリマス、當時我々モ、所謂當時ノ情勢ニ對シテハ妙カラザル社會正義ノ觀念カラシテ憂慮シテ居ッタルデアリマス、即チ當時ニ於テハ動モスレバ黃金萬能、ト言ヘバ少シ語弊ガアルカモ知レマセサガ、黃金ガ非常ナ魔力ヲ發揮シテ居ル時デアツテ、極端ニ魔力ヲ發揮シテ、黃金サヘ持ッテ居レバ何デモ出來ルト云フヤウナ風デアリシ、資本家ハ隨分目ニ餘ル行動ヲシタモノデアリマスカラシテ、之ニ對シテ社會正義ノ觀念カラシテ大勢ノ人が出テ攻撃シタ、ト云フノハ是ハ無理モナイコトダと思フノデアリマス、誰ト雖モ之ガ是正ヲ望ンデ、何トカシテ黃金ノ勢力ヲ制限シヨウト云フコトニ掛ッタルデアリマシテ、統制經濟、詰リ國家ノ權力ヲ用ヒテ何トカ之ヲ制限シヨウト云フヤウナ風ノ聲ガ出タノモ、是ハ無理ナイ次第デアアルノデアリマス、唯我々ハ此ノ問題ヲ扱フニ際シテハ、出來得ル限り道德的ニ「モラル」ニ解決シヨウトシテ居ッタルデアリマス、ガ、「マルクス」ノ如キハ之ヲ直チニ社會改革ニ實行シヨウ、供シヨウト企テテ居ッタルデアリマス、即チ彼等ハ計畫主義ナルモノヲ造リ上ゲテ、此ノ主義ニ基イテ經濟機構ヲ改變シテ、之ヲ社會改革ニ導カウト考ヘタルデアリマス、元來「マルクス」ナルモノハ西洋ニ起ッタモノデアリマシテ、西洋ニ於テハ萬事ガ經濟中心ヲ以テ動イテ居ルノデアリマス、即チ向フニ於テハ經濟ノ實權ヲ握ルト云フコトハ、即チ政治、總

テノ社會上ノ實權ヲ握ルコトデアアル、經濟改革ト云フモノハ、即チソレガ政治改革ニモナリマス、社會改革ニモナルモノデアリマシテ、此ノ意味ヲ以テ、我が國ノ「マルクス」モ矢張り動イテ居ッタルデアリマス、所謂經濟改革ト申シマスルケレドモ、其ノ裏面ニ於テハ政治改革ヲ含ンデ居ッタルコトハ言フ迄モナイ話デアリマス、デ彼等ハ此ノ意味ニ於テ經濟改革ト云フ意味ニ於テ、日本ノ國ヲ改造セントシタノデアリマシタガ、彼等ハ先ヅ之ヲ滿洲ニ行ヒ、之ヲ支那ニ試ミ、更ニ或ガ國ニ及ボサントシタノデアリマシテ、之ガ爲ニハ何トカシテ我が當局者ニ喰ヒ入ッテ、其ノ宿望ヲ行ハセヨウトシタノデアリマス、併シナガラ我が當局者ハ是等ノ者ニ動カサレル筈ハアリマセス、滿洲、支那ニ於ケル所ノ我が當局者ガ、彼等ニ動カサレタコトハ斷ジテアリマス、又斯クノ如キコトハ考ヘテサヘモ私共ハ國辱ト考ヘマス、併シナガラ當時滿洲ニ於テ協和會アタリカラシテ如何ナル聲ガ叫バレタカ、其ノ邊ノ消息ハ星野大臣ハ極メテ能ク御承知ダと思フノデアリマス、「マルクス」ハ苦心慘澹至ラザル所ナク、其ノ宿望ヲ達スル爲ニハ爲サザル所ナク、盡サザル所ナシト云フノデアリマス、殊ニ彼等ノ言議ハ理路井然トシテチヨツト耳ニ入り易イ、又甚ダ計畫ノ才ニ長ジテ居ルガ故ニ、調査企畫ヲサセレバ能ク間ニ合フ、更ニ社會ノ風潮ヲ見ルト云フト、丁度其ノ時分ハ時代ノ變換期ニ立ッテ居リマシテ、何

ダカ爛熟セル資本主義ノ弊ヲ人ハ憎ンデ、之ヲ改メルニ付テハ銳意熱心デアツタノデアリマス、カラ、彼等ガ資本主義ノ缺陷ヲ數ヘテ之ヲ罵倒シ、之ヲ救フノハ唯計畫經濟アルノミト力説スレバ、兎ニ角世間ノ人ハ之ニ耳ヲ傾ケ、又其ノ新奇ナルコトニ對シテ非常ナ魅惑ヲ感ジタノデアリマス、普通ノ人スラ斯クノ如シ、況ヤ年少氣銳ノ人、或ハ又思想ノ單純ナル人ニ於テヤデアリマス、直チニ此ノ議論ヲ實行ニ移サムトシタノデアリマス、欲シタノデアリマス、從ッテ彼等ノ説ハ種々ナル形式ヲ以テ採入レラレ、種々ナル階級ニ侵入スルヤウニナッタノデアリマス、過日警保局長ノ言ヲ諸君ハ何ト御聽キニナツタデアリマセウカ、我我ハ今尙局長ノ悲痛ノ叫ビガ耳ノ底ニアリマス、忘レムトシテモ忘ル能ハズ、憂ヘザラントシテモ憂ヘザル能ハザルモノガアルノデアリマス、故ニ我々ハ官界ニ侵入セムトスル所ノ彼等ノ策動ハ、飽ク迄モ防止シナケレバナリマセス、「マルキシズム」ニ類似スル所ノ法律案ニ對シテハ、特ニ慎重ナル檢討ヲ加ヘナケレバナライ、是ガ我々立法院ニ席ヲ置ク者ノ任務、國家ニ對スル唯一ノ御奉公ダト存ズルノデアリマス、名ヲ國家ノ急ニ藉リマシテ、色々ナ法案ガ出マシテモ、我々ハ其ノ實體ニ對シテ十分ナル檢討ヲ加ヘルコトガ今日我々ニ課セラレタル……殊ニ此ノ防犯、防諜ノ盛ナル今日ニ於テ、國防ノ大事ナ今日ニ於テ最モ我々ガ之ニ對シテ慎重ナ檢討ヲ加ヘナケレバナ

ラスモノダト考ヘルノデアリマス、ソレカラ又議會ニ付議スレバ機宜ヲ失スルカト云フ間ニ對シテ、御辯明ガアリマシタガ、私少シ耳ガ遠イノデ御要旨ノ點ハハッキリ聽取レマセデシタガ、失禮デスケレドモ、分り兼テ居リマシタ、私ハ議會ニ付議サレテモ一向差支ナイト思ヒマス、現ニ日清日露ノ戰役ニ於テ臨時議會ガ如何ニ行動シタカ、ツイ先達テ迄ハ政争デ以テ内閣ト衝突シテ居ツタ、或ハ内閣ヲ彈劾迄セムトシタ所ノ議會デアリマシタケレドモ、一旦大詔ガ渙發サレタト思フト、忽チ政争ヲ忘レテシマツテ、唯君國ニ報ユルノ一心カラシテ臨時議會ハ總テ政府ノ言フ所ニ協賛シ、政府ヲ飽ク迄モ援助スル點ニ於テ少シモ吝シマナカッタ、此ノ忠誠ナル所ノ事實ハ、長ク我ガ國ノ歴史ヲ照シテ居ルコトト思フノデアリマス、一時我ガ國ニ於キマシテ、或ハ政黨政治ノ華ヤカナリシ頃、或ハ資本主義ノ爛熟ノ時ニ於テハ、議會ノ行動ニ非難ノ聲ガ無クハナカッタカモ知レマセスケレドモ、今回ノ非常時ニ際シテ議會ハドウ云フ態度ヲ執ツテ居ルカ、先達テ提出サレタ軍事豫算ノ如キハ即日即決シテ居ルノデアリマス、一旦緩急アレバ義勇公ニ奉ジ、直チニ翼贊ノ寶ヲ舉ゲルコトハ我ガ國ノ精華デアリマス、我ガ國議會モ其ノ精華ヲ常ニ發揚シテ來クノデアリマシテ、唯法案ニ對シマシテハ、是トスベキモノヲ是トシ、即決シマスルケレドモ、慎重ニ考慮ヲ要スルモノハ慎重ニ考慮ヲシ、ソレニ付テ十分ニ我々ハ質サ

ナケレバナリマセス、是ハ陛下ノ和衷審議以テ協贊ノ任ヲ竭サンコトヲ期セヨト云フ大御心ニ對シ奉リ、慎重協贊スルノ任ガアリマスカラ、十分其ノ任ヲ竭サナケレバナラス、ソレ等ノ點ニ付キマシテ政府ガ御心配ニナルコトハ決シテアラレナイカト存ジマス、ソレカラ委任命令ノコトニ付キマシテ先刻モ申シマシタガ、私ガ御問スルノハ、臨時措置法竝ニ總動員法ガ出來マシテカラ、先ヅ出タ所ノ法令ハ此ノ位ノモノデアリマス、ドノ法令ニモ大抵罰則ガ付イテ居ル、ドンナ事ヲシナケレバナラスモノデアラグラウカト云フコトヲ知ル爲ニ、市中ニ行ツテ法令ヲ輯録シタモノヲ買ハウトシマシタ處ガ一切アリマセス、殆ドアリマセヌ、ドレダケノ法令ガ出テ居ルカト云フコトモ分リマセス、オ役所ニ聞イテモオ役所ノ方デモ分ラナイ、幸ニシテ此ノ議院ニ於テハ、或書記官ガ愛知縣ノ經濟部カラ發行サレタ此ノ書物ヲ持ッテ居リマシテ、サウシテ絶エズ訂正加除シテ居ルノデアリマス、是ガ恐クハ日本ニ於テ先ヅ、完全シタル法規ダラウト云フコトデアリマス、外ニナイノデアリマス、政府ハ法令ヲ出シタ以上ハ人民ニ周知サセナケレバナラス、人民ガ法令ヲ知ツテソレニ依ッテ行フト云フナラバ、ソレニ依ッテ初メテ色々ナ行政ノ目的ヲ達スルコトガ出來マセウガ、人民ハチットモ分ラナイ、ドンナ法令ガ出テ居ルカ分ラナイ、ソレガ改正又改正、改正ノ頻繁ナコトハ驚クベキモノデアリマスカラ、普通ノ一人ヤ

二人ノ手デハ此ノ訂正加除ガ出來ナイ、現ニ貴族院デハ會計係デ大勢カカッテ此ノ訂正加除ニ齟齬シテ居ル、憂身ヲ窺シテ居ルト云フ情勢デアリマス、茲ニ於テ人民ハドシナ法令ガ出テ居ルカ分ラナイ、ドンナ事ヲスレバ罰ニナルカ分ラナイ、ドウ云フ風ニスレバ宜イカ、ソレモ分ラナイ、サウシテ而モ罰則ハビシクヤラレテ來ル、是ガ深切ナ行政ト申サレルデアリマセウカ、如何ニモ形カラ見マスト、結果カラ見マスト、知ラナイデ以テ犯ス所ノ人民ヲ罪ニ落スト云フ外ニハ解サレナイノデアリマス、産業ノ花ハ茨ノ中ニハ咲キマセヌ、今日生産擴充ヲシナケレバナラス、産業ヲ發達サセナケレバナラナイト云フ時ニ於テハ、前途ニ横タハル所ノ荊、其ノ他ノ障礙ヲ切り拓カナケレバナラスノデアリマスニモ拘ラズ今日ニ於テハ此ノ通りチヨット勘定シテモ三百三十種バカリデアリマスガ、モットアリマセウ、ドノ位アルカ知リマセヌガ、是等ノ法律ガ鐵條網ノ如ク前ニ横タハッテ居ルノデアリマシテ、一步進メバ衣ヲ裂キ二歩進メバ身體ヲ傷ケル、漸クソレヲ通過シタナラバ滿身是レ創痕ト云フ情勢ニナラヌトモ限ラス境遇ノ裡ニ於テ、我ガ國ノ企業者ハ歩ヲ進メナケレバナラスノデアリマス、生産擴充々々々々ト政府ハ唱へ、之ヲ人ニ説イテ居ルニ拘ラズ、此ノ通り荊ノ道ヲ進ンデ行カナケレバ、産業ガ出來ナイ、産業ガ困難ト云フ情勢デアリマシテ、是デ本當ニ生産擴充ノ目的ヲ達スルコトガ出來マセ

ウカ、我々ハ之ヲ本ニ縁ッテ魚ヲ求メルノ類ト言ハザルヲ得ナイト思フノデアリマス、又指導者原理、指導者原理ト云フコトヲ政府ハ盛ンニ言ハレテ居ルノデアリマスケレドモ、此ノ指導者原理ト云フコトハ、恐クハ「ドイツ」ニ於テ行ハレタ言葉デアリマセウシ、「ヒットラー」ガ出テ始メテ指導者原理ガ出來タ「ヒットラー」出デザレバ指導者原理ハ出來ナカッタ、或ハ行ハレナカッタカモ知レナイ、原理ナルモノハ要スルニ原理デア、人ヲ俟ッテ初メテ行ハレルノデア、此ノ指導者原理モ「ヒットラー」ノ如キモノガ上ニ立ツ、又彼等ガ「シヤハト」ヲ優遇シタトカ、「フンク」ヲ優遇シタトカ、或ハ「ハル」ヲ優遇シタトカ、ト云フヤウナコトデ、其ノ道ノ堪能ナモノガ指導シタナラバ茲ニ於テ始メテ欣然トシテ皆ガ其ノ後ニ附キ進ム、本當ニ心カラ服シテ業ヲ樂シムデアリマセウガ、今日我ガ國ノ所謂指導體制ト云フモノハ、體制ヲ作ルニ急デアリマスケレドモ、其ノ指導者ガ幾人アルデアリマセウカ、當業者ハ斷エズ無理解ナル所ノ指導ノ下ニ於テ苦シンデ居ル情勢デア、引上ガムトスル所ノ指導者ハナク、後カラハ經濟警察ヲ以テ追ハレテ來ル、而モヤラウトスル所ノ法律ガ何ノ法律ガアルカソレモ分ラナイ、斯ウ云フ情勢デアリマシテ、色々ナ所ノ規則ヲ餘リニ作り、色々ナムツカシイ原理ヲ作りマシタ所ナリ何カラ達セラレマセウカ、殊ニ又餘リ罰則ガ嚴重ナル結果トシテハ、人ノ企業精

神ト云フモノガ萎靡シテ居ルコトハ、遺憾ナガラ今日ノ事實デアリマス、生産擴充ヲシヨウトスルナラバ、ドウシタ所ガ人ノ企業精神ヲ盛ニシナケレバナラス、丁度文士ガ何カ書キタイ、畫家ガ繪ヲ描キタイ描キタイト云フヤウナ風ニ、企業家ト云フモノハ何カ仕事ヲシタイノデアアル、ダカラ其ノ企業ノ精神ヲ發揮スルヤウニサセルノ

立法ヲ計畫シ、サウシテ益、法令ヲ雨ノ如ク下スト云フヤウナ風ノコトハ、決シテ策ノ得タルモノデナカラウト思フデアリマス、政府ハ尙是デモ法令ヲ澤山増サナケレバナライ、罰則ヲ嚴重ニシナケレバナライト云フ御見込デアリマセウカ、ドウデアリマセウカ

〔國務大臣星野直樹君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(星野直樹君) 只今ノ赤池サンノ御質問ニ御答ヘ致シマス、御質問ノ順序ト多少異ナルカモ知レマセヌ、第一ニ、一旦緩急アツタ場合ニ議會ヲ召集シテハ機宜ヲ失スルカドウカト云フヤウナ御質問ニ對シマシテハ、先程申シマシタガ御了解ヲ得

ナカッタデモウ一遍申上ゲマス、今日ノ事態ニ即應致シマシテ、急變ニ備ヘテ十分ノ準備ヲナシ、豫メ機宜ヲ失セザルヤウニ準備ヲナシ、又事態ノ發生シタル場合ニ十分機宜ノ處置ヲ執ル爲ニハ、矢張り總動員法ト云フヤウナモノノ活用ト云フモノモ必要

デアラウト存ジテ居リマスト云フコトヲ申上ゲタ次第デゴザイマス、ソレカラ第一ニ、罰則ノ點ニ付テ申上ゲマス、勿論罰則ト、斯クノ如キモノハ成ルベク適用シナイヤウニ

スルノガ一番良イコトト存ジマス、併シ總動員法ノ各般ノ條項ニ該當スル犯罪ノ中ニハ、相當大規模ナ、又相當惡質ナモノモアルノ

デゴザイマシテ、是等ノモノニ對シマシテハ、矢張り相當ノ刑罰ニ處スルト云フコト

ガ必要ダラウト存ジマシテ、今日ノ總動員法ニ對スル犯罪ノ中、是等惡質又ハ

大規模ノモノニ對處スルヤウニ罰則ノ強

化ヲ圖ツタノデゴザイマシテ、總體ト致

シマスレバ成ルベク罰則ト云フモノニ

依ラズニ、國家總動員法ト云フモノノ

態勢ヲ完備致シタイト云フコトヲ念願

致シテ居ル譯デゴザイマス、ソレニ付キマ

シテハ、政府ハ有ラユル手段ヲ講ジマシテ、

今日以上ニ更ニ能ク國民ニ徹底致シマシテ、

官民協力シテ總動員態勢ヲ執ルヤウニ努力

致シタイト云フコトヲ念願致シテ居リマス、

次ニ是ハ最初ニ仰セニナツタコトデゴザイマ

スルガ、今回ノ總動員法ニ於キマシテ、計

畫經濟ノ實行ヲ圖ルノデハナイカト云フヤ

ウナ御話、勿論政府ハ組閣ノ最初ニ方リマ

シテ、今日ノ計畫經濟ノ實行ト云フコト

ヲ聲明シテ居リマスルシ、又總理大臣カラ

モ、此ノ議場ニ於テ施政方針トシテ御話ニ

ナツタノデゴザイマス、其ノ趣旨ハ、要スルニ今日ノ如キ時代ニ即應致シマシテ、限リアル所ノ力ト、限リアル所ノ資源ト云フモノヲ以テマシテ、此ノ大事業ヲ完遂スルト云フコトノ爲ニハ、有ラユル點ヲ無駄ノナイヤウニ、最モ有效ニ働カサナケレバナライ、之ニハ各般ノ計畫ガ必要デアリマシテ、現ニ物資動員ノ計畫、或ハ爲替計畫、或ハ資金ノ計畫、或ハ勞力ニ對スル動員ノ計畫ト云フヤウナ、諸般ノ計畫ト云フモノニ基キマシテ、最モ有力ニ、最モ有效ニ、此ノ國力ヲ綜合シテ行キタイ、斯ウ存ジテ居ル譯デアリマス、是ガ政府ガ考ヘテ居ル所ノ計畫經濟、此ノ計畫ニ基キマシテ最モ力ヲ發

揮シテ行カウト云フコトニ外ナライノデゴザイマス、サウシテ其ノ方法ト致シマシテハ、是ハ先般申上ゲマシタ通り、官民協力ニ依ツテ、重要産業ヲ中心トシテ行カウ、官民協力態勢ト云フモノニ依リマシテ、此計畫ノ實行ヲ圖ツテ行ク、又其ノ計畫モ立テ行カウト云フコトヲ考ヘテ居ル譯デゴザイマス、左様ナ趣旨ニ於キマシテ、今回ノ總動員ニ付キマシテモ、此ノ實行ニ付キマシテハ、官民協力致シマシテ、是非國力ヲ最モ有效ニ動員スルコトガ出來ルヤウニヤツテ行キタイ、斯クノ如キコトガ出來マスルヤウニ條項ヲ改正致シテ居ルノデアリマス、結局計畫ト云フコトハ、國家ガ色々ナ計畫ニ依リマシテ最モ無駄ノナイヤウニト云フコトヲ考ヘテ居ルノデゴザイマシテ、ソレハ全部國家ガ總テノ計畫ヲ立テルト云フコトデハゴザイマセヌ、又全部ヲ悉ク統制法規ノ範圍ニ入レルト云フコトデナイノデゴザイマシテ、要スルニ國家ガ綜合的ノ計畫ヲ立テマシテ、之ニ依リマシテ各種ノ企業家或ハ各種ノ企業團體ト云フモノガ、十分創意、能力ヲ發揮スルヤウニ致ス、之ヲマア趣旨ト致シマシテ計畫ヲ立テテ行キタイ、斯ウ云フ風ニ存ジテ居リマス、今回ノ總動員法ノ改正ト云フコトニ付キマシテモ、斯クノ如キコトガ出來ルヤウニト云フヤウナコトモ、其ノ趣旨トシテ入ツテ居ル譯デゴザイマス、ドウカ此ノ點十分御了承願ヒタイト思ヒマス

〔赤池濃君演壇ニ登ル〕

○赤池濃君 只今星野大臣カラ計畫經濟ト云フ言ヲ盛シニ言ハレマシタノデアリマス、私ハ、政府ガ計畫經濟ト云フ言葉ヲ發表サレタノデアリマスカラ、仕方ナイノデアリマスルケレドモデス、此ノ言葉ニ付テハ非常ニ憂慮スルコトガアル、ト申シマスルノハ、學問的ニ言フナラバ、計畫經濟ト云フコトハ「マルキスト」ノ言デアアルノデアリマス御承知ノ如ク、「ドイツ」ニ於テハ「ヒットラー」ハ計畫經濟ト云フ言葉ヲ全然排斥致シマシテ、「プラン・ウイルト・シヤフト」ト云フコトヲ、「レンクング・ウイルト・シヤフト」デナケレバナラスト云フコト、斯ウ云フコトデ以テ計畫經濟ト云フ言ヲ極力排シテ居ルノデアリマス、而モ之ヲ行ッテ居ルノハ「ソ」聯デアアルノダ、而モ其ノ「ソ」聯ハ最初ソレヲ採ツケレドモ、後ニ於テハ事實ニ於テソレヲシナクナツタ、所謂後退ヲシタト云フノデアリマス、我々ガ採長補短、他國ノ長所ヲ採ツテ我が短ヲ補フノハ宜イノデアリマスケレドモ、他國ノ弊害アルモノヲ、失敗シタモノヲ採ツテ其ノ惡ニ倣フト云フコトハ、是ハ宜シクナイノデアリマス、何故ニサウ云フヤウナ御言葉ヲ御用ヒニナルカ、「ヒットラー」ハ言フ、計畫經濟ニ於テハ責任ヲ執ル者ガナイ、人ノ創意ヲ害スルノダト云フコトヲ言フテ居ルノデアリマシテ、又私モサウダラウト思フ、然ラバデス、例ヲ取ル時分ニ於テハ、又參考ニ供スル時分ニ於テハ、サウ云フヤウナコトヲ考ヘナケレバナラスモノダト思フ、ソコニ若シ御用意ガナカッタト云フナラバ、

失禮ナガラ輕率トカ杜撰トカ云フヤウナ風ノ批評ヲ受ケナケレバナラスデヤナイカト思フ、殊ニ言葉ハ、言葉ト申シマスケレドモ重大ナ意義ヲ持テ居ル言葉デアアルノダカラシテ、其ノ言葉ニ付テハ相當御考ニナルコトガ必要デアルト思フ、ソレカラ官民協力ト仰シヤイマスケレドモ、官民協力ハ是非必要デアリマス、我が國ハ始終事有ル時ニ於テハ舉國一致デアリマス、近頃ハ舉國一致ノ體制ヲ執ルト云フヤウナ生マシイコトヲ言ッテ居リマスケレドモ、體制何物ゾ、我々ノ先輩ハ必ラズ舉國一致ノ實ヲ舉ゲテ來テ居ル、何ヲスルニ付テモ舉國一致デナケレバナラス、官民一致デナケレバナラス、體制トカ何トカ云フヤウナ生マシイ言葉ヲ言フベキ時デハナイ、我々ハ舉國一致デ以テシナケレバナラスノデアリマシガ、今回發布サレマシタ所ノ總動員法其ノ他ノモノヲ見マスルト、殆ド政府デ以テ有ラユルモノヲ割當テテ決メテシマツテ居ル、原料ハ是ダケノモノデアリ、材料ハ是ダケノモノデアリ、方法ハ是デ以テヤレ、配給ハ是ダケノ配給ヲ以テヤラナケレバナラス、斯ウ云フ風ニシロ、ト總テ何カラ何迄設備サレテ居ルノデアリマス、ソコニ於テ何等人ノ創意、責任ヲ認メナイト云フ時ニ於キマシテ、本當ニ官民一致ガ出來マセウカ、官民一致ト云フコトニ付テハ、其ノ當局者ガ本當ノ責任ヲ以テ、自分ノ良智良能ヲ發揮シマシテ、ソコニ於テ本當ニ計畫シタ時ニ於テ初メテ出來ルコトデアリマセウ、一

切合財皆命令デ當テガハレテ居ル其ノ時ニ於テ、本當ノ勇猛心ヲ起セトカ、本當ノ能力ヲ發揮シロトカ言ッテモ、是ハ言フ方ガ無理デアリマセウカ、官民一致ヲ唱ヘルナラバ、須ク官民一致ノ出來ルヤウナ情勢ニ置カテケレバナラスト思フ、ソレカラ又統制ヲシナケレバナラスト仰シヤル、統制モ結構デアアル、先程カラ諄ク申シマスル如ク、必要ノ場合ニハ國家ノ權力ヲ加ヘテ、サウシテ物ヲ能ク處置スルト云フコトハ、是ハ政治トシテハ當然ノコトデアリマス、併シハ統制經濟、計畫經濟ナルモノニ依ッテ、一切合財國家々々ト言ウテ、國家ト云フ名前ノ下ニ於テ官吏ガ色々ナコトヲシマシタナラバドウナリマセウカ、例ヘバ公定相場ニ付テ見マシテモ、先程ノ委員會ニ於テ明カニナツタ如ク、初メハ重要物産ニ限ッテ居ツタ、今日ニ於テハソレガ三萬點ニ及ビ更ニ九萬點ニ及ンダト云フ風デ以テ、萬物相關ノ理ハソコラ中ニズツト擴ガツテ行カナケレバナラナクナル、殆ド際限ガ付カナクナツテ來ル、私ハ先達テ委員會ニ於テ政府ニ此ノ總動員法行ハレテ以來、臨時措置法行ハレテ以來、如何ニ官廳ガ増シタカ、官廳人員ガドウ位殖エタカ、經費ガドウ位殖エタカト云フコトヲ御聽キシタケレドモ、未ダ以テ御答辯ガナイ、サウ云フヤウナ風デアリマシテ、何處迄行クカ分ラナイ所ノ情勢デアアルノデアリマス、此ノ統制ニ、計畫經濟ニ就キマシタナラバ、實際色々ナコトヲ考ヘナケレバナイ譯デアリマスルカ

ラシテ、ソレデモ尙之ヲ御ヤリニナルカドウカト云フコトヲ、私ハ切ニ伺フ者デアリマスルガ、併シ委員會モアリマスコトデアリマスカラシテ、今日ハ此ノ程度ニ於テ質問ヲ打切ッテ、後ノ詳シイコトハ委員會ノ席ニ譲リタイト思ヒマス

○子爵大河内輝耕君 質問致シタウゴザイマス

○假議長(公爵德川昭順君) 宜シウゴザイマス

(子爵大河内輝耕君演壇ニ登ル)

○子爵大河内輝耕君 只今赤池君カラ非常ニ適切ナ御尋ネガアツタ、政府ノ十分ナ答解ヲ茲ニ得タイト思ヒマシタケレドモ、政府ノ答辯ガチヨットモハッキリシナイ、何ヲ仰シヤルノダカ少シモ分ラヌ、仕方ガナイカラ、時間ノナイノニ起クナケレバナラスコトニナリマシタ、私ノ伺フ所ハ、計畫經濟ト云フノヲ政府ハドウ解シテ居ルカト云フコトデス、ソレハ併シ只今能ク分ツテ來タノデ、總テノモノヲ國營ニシテ國家ノ意思デヤルノヂヤナイト斯ウ云フ御話ダツタ、ソレニ付テ第一ニ伺ヒタイノハ、私ハ計畫經濟ノ言葉、此ノ言葉ニ付キマシテ先達テ赤池議員カラ十分此處デ御話ガアリマシテ、政府ハ其ノ不當ナルコトヲ認メラレテ訂正ヲサレルコトトモ思フ、ソレデ私ハ豫算委員會ニ於キマシテ此ノ點ヲ質問致シマシタ、尙此ノ言葉ヲ司法省ノ豫定經費ノ要求書ノ中ニ私ハ發見シタ、ソレデ司法省ニ注意ヲ致シマシテ、司法省ノ當局ハ早速私ノ意見

ヲ容レラレテ之ヲ訂正サレタ、ソレニモ拘
ラズ、企畫院總裁ハ、何ノ必要ガアルノカ
此ノ字ヲ無闇ニ御使ヒニナル、怪シカラヌ
コトダト私ハ思フカラ、數回ニ及ンデ注意
ニ及ンダ、サウシテ今迄言フタコトハ仕方ガ
ナイカラ、赤池議員ニ對スル答辯ノ趣旨ニ
依ッテ早く御訂正ニナツタラ宜カラウト云フ
コトヲ言ツタガ、一向御聽キニナラス、是ハ
當局者トシテ御考ガ二途ニ出テ居ルカラデ、
ドチラダカハキリ決メテ戴キタイ、ソレカ
ラ次ニ此ノ總動員法ハ、今ノ企畫院總裁ノ
御答ニ依ルト、總テヲ國有國營ニスルノデ
ヤナイ、人民ノ創意ハ飽ク迄認メルノダ、
斯ウ云フ御話ナラ是ハドウ云フ譯デ……處
ガ此ノ法律ノ上ヲ見マスト、總テガ國家ノ
意思デヤツテ差支ナイヤウニ出來テ居ル、生
産ノ仕方デモ、勞力管理デモ、皆國家ノ言
フ通りニ、國家ト云フヨリ寧ろ政府デス、
政府ナリ官吏ナリノ言フ通りニヤルヤウニ
出來テ居ル、ロデバカリ計畫經濟ハイケナ
イト言ツタツテ、此ノ總動員法ノ法律上ノ立
テ方、建前ハサウナツテ居ル、是ハ何トカ若
シモ今企畫院總裁ノ言フヤウニ、官民一致
デ、國民ノ意思ヲ飽ク迄モ尊重スルノダト仰
シヤルナラバ、相當立法上之ヲ修正サレル
必要ガアラウト思フ、此ノ點ヲ伺ヒタイ、
ソレカラ第三點トシテハ、只今赤池議員ノ
言ハレタ通り、此ノ法令ノ濫發ヲヤツタツテ
何ニモナラナイノダ、何故是ハコンナニナツ
タカト云フト、是ハ私ハ簡單ナコトト云ヘ
ルト思フ、役人ガ指導者原理ニナツテ國民

ヲ指導シヨウトスルカラコンナコトニナツ
テシマフ、ソレヨリモ役人トシテハ、生産
力擴充ガ一番必要ナンデス、役人ドコロデ
ナイ、我々モ全部擧ゲテ生産擴充ガ必要ダ
ト思フテ居ル、ソレデアリマスカラ、ソレナ
ラバ此ノ法令ナンゾスツカリ御止めニナツテ、
サウシテ詰ラナイ經濟團體ニ役人ヲ置クン
ダノ、ソレヲ指導者ニシテ經濟團體ヲ引摺
テ行クンダナンテ、ソレナ考ヲ一切御止め
ニナツテ、經濟團體ヲ作ルノハ宜イガ、其ノ
經濟團體ノ長老ニ能ク御懇談ニナツテ、政府
トシテ是ダケノモノヲ是ダケノ金デ作りタ
イノダ、ドウカ一ツヤツテ呉レヌカト云フヤ
ウニ御話ニナレバ宜イ、現ニ此ノ席ニオイ
デニナルカドウカ存ジマセヌガ、新聞紙ニ
依リマストレバ、石油ノ方ニ付キマシテハ橋
本社長ガ非常ニ御奔走ニナツテウマク出來
掛カツテ居ルト云フ、誠ニ結構ナコト、鐵ニ
於テモ、電力ニ於テモサウ云フ御ヤリ方ヲ
爲サレバ宜イ、政府ガ獨善デヤルモノダカ
ラ發送電ノアノ始末ハドウデス、金ヲ損ス
ルバカリデナイ、樺太ヤ北海道カラハ火事
ガ出掛カツテ居ル、アノ始末ヲ何ト御覽ニナ
ルカ、是ハ皆役人ガ先ニ立ツテサウシテヤ
ラウトナサルカラサウナル、ソレヨリモ其
ノ道ノ長老ニ御依頼ニナリマシテ、能ク御
懇談ニナレバ必ズ是ハ行ク所迄行クと思フ、
其ノ三點ニ付キマシテ、只今ノ赤池君ノ御
質問、御質問ニ付テハ無論我々却テ蛇足ヲ
加ヘルダケガ餘計ナモノト存ジマスケレド
モ、御答ガ如何ニモ不明ナモノダカラ、重

ネテ起タザルヲ得ナクナツタ
〔國務大臣(星野直樹君) 先程ノ赤池サ
ンノ御質問竝ニ之ニ關聯致シマシテ只今ノ大
河内子爵ノ御質問ニ對シテ御答辯申上ゲマ
ス、第一ノ計畫經濟ト云フ點ニ付キマシテ
ハ、是ハ先程來、如何ナル意味デ以テ計畫
經濟ト云フヤウナ意味ヲ用ヒルカト云フコ
トニ付キマシテハ、縷々申上ゲタ通りデゴ
ザイマス、要スルニ今日ニ於キマシテ國家
ガ統制ヲ致シテ行カナケレバナラス、大キ
ナ目的ノ爲ニ色々今日限リアル所ノ資源、人
力ト云フモノヲ用ヒテ行カナケレバナラス、
之ニハ矢張り國家ガ綜合計畫ヲ樹テマシ
テ、其ノ計畫ニ基イテ、各般ノ各部門ノ人
ハ創意工夫ヲ盡シテ働イテ貫ハナケレバナ
ラス、斯ウ云フ意味ニ於キマシテ政府ハ計
畫經濟ト云フモノヲ用ヒテ居ルノデゴザイ
マス、決シテ他意ハナイ、而シテ今日ニ於
キマシテハ矢張り綜合計畫ヲ樹テ、進ム、
勿論此ノ綜合計畫ト云フコトニ於キマシテ
ハ政府ガ全責任ヲ持チマヌガ、其ノ範圍内
ニ於テ各企業者、又企業者ノ團體ト云フモ
ノガ創意工夫ヲ盡シテ、責任ヲ以テ仕事ニ
當ル、斯ウ云フコトヲ庶幾シテ居ルト云フ
コトヲ申上ゲタノデゴザイマス、ドウカ左
様ノ意味ニ於キマシテ御諒承ヲ願ヒタイト、
斯ウ思フノデアリマス、最後ニ官民協力作
云フコトニ付キマシテ、又此ノ事業ノ施行ト
云フコトニ付テ、所謂役人ノミガ指導スル
カライカス、或ハ役人ガ主トシテ指導スル

コトガイカスト云フヤウナ御話ニ付キマシ
テハ、其ノ點ニ付テモ誠ニ御同感ノ點ガア
ルノデゴザイマス、從ヒマシテ、先般政府
ニ於テ發表致シマシタ經濟新體制ニ於キマ
シテモ、出來得ル限り各團體、各業者ニ御
任セシテ、ソレ等ノ御方々ガ自分達ノ創意
能力ヲ盡シテ、責任ヲ以テ各部門ニ於ケル
所ノ生産擴充、事業ノ遂行ト云フモノニ當ッ
テ戴キタイ、斯クノ如キヤウナ形ニ、斯ク
ノ如キ事ガ出來ルヤウニ致シタイト、斯ウ
存ジテ居ルノデアリマス、唯斯クノ如キ場
合ニ於キマシテ、各企業ノ方々ニ、例ヘバ
鐵鋼トカ或ハ石炭ト云フモノヲ任セテ成
ルベクヤツテ行キタイト云フ場合ニ於キマ
シテハ、矢張り其ノ業者自體ノ中ニ於キマ
シテ、相當ノ意見ノ違ヒガアツタ場合ニ、之
ヲ判斷シテ行クト云フコトモ必要デアル、
強力ニ之ヲ執行シテ行クガ爲ニハ、ドウシ
テモ各業者ガ一體トナツテ行ク必要ガアル、
其ノ一體トナツテ行ク基礎ト云フモノヲ此
ノ總動員法ニ於テ定メタイ、斯ウ云フコト
モ考ヘテ居ルノデゴザイマス、要スルニ總
動員法ニ於キマシテハ、勿論法律ノ形ト致
シマシテハ、政府ノ權限ト云フモノヲ規定
シテ居ルノデゴザイマスルガ、其ノ趣旨ト
致シマシテハ、是等ノ規定ニ基キマシテ、
此ノ基礎ノ上ニ眞ニ各業者ガ一體トナツテ、
サウシテ其ノ創意ノ能力ト云フモノヲ十分
働カセルヤウニ致スコトニシタイト云フコ
トガ趣旨ナノデゴザイマス、左様ナ點ニ付
キマシテ、詳細ノ點ニ付キマシテハ、尙委

員會其ノ他ノ席デ十分ニ御説明申上ゲタイト思ヒマスルガ、其ノ趣旨ハ十分御了解ヲ御願ヒ致シタイ次第デゴザイマス

○子爵大河内輝耕君 尙御答ノナイ部分ダケ重ネテ御答へ願ヒタイ、説明スル迄モゴザイマセヌガ、計書經濟ト云フ言葉ハ御訂正ニナルノデスカ、ナラスノデスカ、其ノ點、ナルトカ、ナラストカ……第一ガ、此ノ總動員法ノ建前トシテハ、總テガ政府ノ意思デヤレルヤウニ出來テ居ル、此ノ法律上ノ解釋ヲ伺ヒタイ、其ノ二點ダケ明カニシテ貰ヒタイ

(國務大臣星野直樹君演壇ニ登ル)
○國務大臣(星野直樹君) 只今ノ二點ニ付テ御答へ申シマス、先程申シマシタヤウニ、政府ガ從來計書經濟ト云フ言葉ヲ用ヒテ居リマスルノハ、左様ナ意味デゴザイマスルガ故ニ、斯クノ如キ意味ニ於キマスル計書經濟ト云フモノハ、之ヲ用ヒルコトハ不當デナイト、斯ウ存ジテ居ル次第デゴザイマス、次ニ第二ノ點ニ付キマシテハ、勿論先程申シマシタ通り、本法ノ法律ト致シマシテハ、政府ノ權限モ、色々爲スコトヲ得ル權限ハアルノデゴザイマスルガ、此ノ法律ノ法條ニ基キマシテ、先程申シマシタヤウニ、出來得ル限り官民協力ヲ得テ、眞ニ各業者ノ方々ガ十分ノ能力ヲ發揮スルヤウニ之ヲ運用致シタイト斯ウ存ジテ居ル次第ナノデゴザイマス

○子爵大河内輝耕君 私ハモウ宜シウゴザイマス

○子爵戸澤正己君 只今上程ニ相成リマシタ國家總動員法中改正法律案ハ、重要ナル法案デアリマスルガ故ニ、此ノ特別委員ノ數ヲ二十七名トシ、其ノ委員ノ指名ヲ議長ニ一任スルコトノ動議ヲ提出致シマス

○子爵秋田重季君 賛成

○假議長(公爵徳川閑順君) 戸澤子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

(異議ナシ)ト呼フ者アリ

○假議長(公爵徳川閑順君) 御異議ナイト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

(近藤書記官朗讀)

國家總動員法中改正法律案特別委員

- 公爵島津 忠重君 侯爵前田 利爲君
- 侯爵西郷吉之助君 伯爵橋本 實斐君
- 男爵大井 成元君 子爵前田 利定君
- 子爵大河内正敏君 子爵岡部 長景君
- 子爵織田 信恒君 水野鍊太郎君
- 犬塚勝太郎君 宇佐美勝夫君
- 八田 嘉明君 藤原銀次郎君
- 塚本 清治君 男爵中川 良長君
- 男爵大藏 公望君 白根 竹介君
- 男爵矢吹 省三君 男爵渡邊 汀君
- 堀切善次郎君 山岡萬之助君
- 赤池 濃君 小坂 順造君
- 野村茂久馬君 岩田 宙造君
- 中山 太一君

第四、府縣會議員、市町村會議員等ノ任期延長ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、是等ノ兩案ヲ一括シテ議題ト爲スコトニ御異議ゴザイマセヌカ

(異議ナシ)ト呼フ者アリ

○假議長(公爵徳川閑順君) 御議ナイト認メマス、平沼内務大臣

衆議院議員ノ任期延長ニ關スル法律案 右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十六年二月八日 衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

衆議院議員ノ任期延長ニ關スル法律案 現任衆議院議員ノ任期ハ之ヲ一年延長ス前項ノ場合ニ於テハ衆議院議員選舉法第七十五條及第七十九條ノ選舉ハ之ヲ行ハズ

衆議院議員ノ數ガ衆議院議員選舉法別表ニ掲グル各選舉區ノ議員數ヲ合算シタル數ノ三分ノ二ニ滿タザルニ至リタルトキハ之ガ補充ノ爲選舉ヲ行フ

前項ノ選舉ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

府縣會議員、市町村會議員等ノ任期延長ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十六年二月八日 衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

府縣會議員、市町村會議員等ノ任期延長ニ關スル法律案

衆議院議員ノ任期延長ニ關スル法律案 昭和十七年三月三十一日迄ニ任期滿了スベキ府縣會議員又ハ市制第六條ノ市ノ區ノ區會議員ノ任期ハ昭和十七年四月一日迄之ヲ延長ス

昭和十七年三月三十一日迄ニ任期滿了スベキ市町村會議員、全部事務ノ爲ニ設クル町村組合ノ組合會議員又ハ町村制ニ基キテ發スル勅令ニ依リ設置スル町村會若ハ全部事務ノ爲ニ設クル町村組合ノ組合會議員ノ任期ハ昭和十七年五月二十日迄之ヲ延長ス

附則 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス 本法施行ノ際現ニ選舉ヲ行フベキ事由アルモ其ノ事由ガ議員ノ任期滿了前六月以内ニ生ジタルニ因リ行ハザル選舉ヲ本法施行ニ因リ行フ場合ニ於テハ其ノ選舉ノ期間ハ本法施行ノ日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス 本法ハ本法施行前議員ノ總選舉ノ告示アリタル場合ニハ之ヲ適用セズ

(國務大臣男爵平沼驥一郎君演壇ニ登ル)
○國務大臣(男爵平沼驥一郎君) 只今議題

ト相成リマシタ衆議院議員ノ任期延長ニ關スル法律案ニ付キマシテ、先ヅ提案ノ理由由ニ依リマシテ、議員ノ任期ヲ一年間延長スルト云フノガ本案ノ骨子デアリマスルガ、同様ノ理由ニ依リマシテ、其ノ間ハ所謂再選舉及補闕選舉ハ之ヲ行ハナイコトニ致シテ居リマス、唯現任議員カ餘リニ少數ニ相成リマスルト、議會ノ運用ニ支障ヲ來ス虞ガアリマスノデ、現任議員ノ數ガ議員總定數ノ三分ノ二ニ滿タザルニ至リマシタトキニハ、其ノ補充ノ爲メ選舉ヲ行フコトニ致シテ居ルノデアリマス、次ニ府縣會議員、市町村會議員等ノ任期延長ニ關スル法律案ニ付キマシテ、其ノ提案ノ理由由ニ依リマシテ、大要ヲ説明致シマス、本法案ノ根本趣旨ハ、衆議院議員ノ任期延長ニ關スル法律案ト同様デアリマス、即チ我ガ國內外ノ緊迫セル狀況ニ鑑ミマシテ、地方議會議員ノ任期ヲ延長シ、今後大體一箇年間ハ總選舉ヲ執行セザルコトト致シマシテ、國民間ニ不必要ナ摩擦競争ノ惹起スルコトヲ避クルト共ニ、舉國一致時ヲ惜シンデ、國防國家體制ノ整備ニ邁進セムトスルノ趣旨デゴザイマス、本法案ノ大要ヲ申上ゲマスルト、先ヅ本法案ノ適用ヲ受ケマスル議員ノ範圍ハ、府縣會議員、市町村會議員、市制第六條ノ市ノ區ノ區會議員、北海道一級町村及二級町村ノ町村會議員、並ニ全部ノ事務ノ爲ニ設タル町村組合ノ組合會議員デアリマス、是等ハ地方自治ノ基本的團體ノ議會ノ議員デアリマシテ、衆議院議員ニ準ジマシテ取扱フコトヲ適當ト認メタノデアリマス、是等

ノ議員デアツテ、明年三月三十一日迄ニ任期滿了スベキモノハ、本法案ニ依リマシテ、任期ガ延長サレルノデアリマスルガ、任期ノ延長サレマスル期間ハ、府縣會議員、區會議員ト市町村會議員等トノ間デハ異ツテ居リマス、斯ク致シマシタノハ、任期延長ノ結果、一齊ニ之ヲ行ヒマスルト選舉ガ全ク重複ヲ致シマシテ、又極メテ接近致シテ執行サレル結果ト相成リマシテ、種々ノ點カラ不都合ガアリマスルカラ、斯クノ如ク定メタノデアリマス、次ニ地方議會ニ付キマシテハ、再選舉、補闕選舉等ハ之ガ執行ヲ停止スルコトニハ致シテ居リマセヌ、是等ノ選舉ハ、衆議院議員選舉又ハ地方議會ノ總選舉ニ比シマスレバ、選舉ノ規模ニ於キマシテ、競争ノ程度ニ於キマシテ遙カニ低ク、之ヲ執行致シマシテモ、任期延長ノ趣旨ニ反セナイト認メタカラデゴザイマス、以上ヲ以テ兩案ノ大體ノ説明ト致シマス、何卒御審議ノ上御協賛アラムコトヲ希望致シマス

○假議長(公爵徳川圀順君) 御質疑ガナケレバ、兩案ノ特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス
〔白木書記官朗讀〕
衆議院議員ノ任期延長ニ關スル法律案外一件特別委員
公爵徳川 家正君 子爵松平 乘統君
子爵富小路隆直君 男爵岩倉 道俱君
大塚 惟精君 菊池 恭三君

光永 星郎君 下出 民義君
鈴木 幸作君
○假議長(公爵徳川圀順君) 日程第五、國防保安法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、柳川司法大臣
國防保安法案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和十六年二月八日
衆議院議長小山 松壽
貴族院議長伯爵松平賴壽殿
國防保安法案
第一章 罪
第一條 本法ニ於テ國家機密トハ國防上外國ニ對シ秘匿スルコトヲ要スル外交、財政、經濟其ノ他ニ關スル重要ナル國務ニ係ル事項ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノ及之ヲ表示スル圖書物件ヲ謂フ
一 御前會議、樞密院會議、閣議又ハ之ニ準ズベキ會議ニ付セラレタル事項及其ノ會議ノ議事
二 帝國議會ノ秘密會議ニ付セラレタル事項及其ノ會議ノ議事
三 前二號ノ會議ニ付スル爲準備シタル事項其ノ他行政各部ノ重要ナル機密事項
第二條 本章ノ罰則ハ何人ヲ問ハズ本法

施行地外ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ付亦之ヲ適用ス

第三條 業務ニ因リ國家機密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ外國(外國ノ爲ニ行動スル者及外國人ヲ含ム以下ニ同ジ)ニ漏泄シ又ハ公ニシタルトキハ死刑又ハ無期若ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第四條 外國ニ漏泄シ又ハ公ニシタル目的ヲ以テ國家機密ヲ探知シ又ハ收集シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ目的ヲ以テ國家機密ヲ探知シ又ハ收集シタル者之ヲ外國ニ漏泄シ又ハ公ニシタルトキハ死刑又ハ無期若ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第五條 前二條ニ規定スル原由以外ノ原由ニ因リ國家機密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ外國ニ漏泄シ又ハ公ニシタルトキハ無期又ハ一年以上ノ懲役ニ處ス

第六條 業務ニ因リ國家機密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ他人ニ漏泄シタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 業務ニ因リ國家機密ヲ知得シ又ハ領有シタル者過失ニ因リ之ヲ外國ニ漏泄シ又ハ公ニシタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 國防上ノ利益ヲ害スベキ用途ニ供スル目的ヲ以テ又ハ其ノ用途ニ供セラルル虞アルコトヲ知リテ外國ニ通報スル目的ヲ以テ外交、財政、經濟其ノ

他ニ關スル情報ヲ探知シ又ハ收集シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第九條 外國ト通謀シ又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ治安ヲ害スベキ事項ヲ流布シタル者ハ無期又ハ一年以上ノ懲役ニ處ス

第十條 外國ト通謀シ又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ金融界ノ擾亂、重要物資ノ生産又ハ配給ノ阻害其ノ他ノ方法ニ依リ國民經濟ノ運行ヲ著シク阻害スル虞アル行爲ヲ爲シタル者ハ無期又ハ一年以上ノ懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ十萬圓以下ノ罰金ヲ併科スルコトヲ得

第十一條 第三條乃至第五條、第八條、第九條及前條第一項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十二條 第三條乃至第五條、第九條又ハ第十條第一項ノ罪ヲ犯スコトヲ教唆シタル者ハ被教唆者其ノ實行ヲ爲スニ至ラザルトキハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第十三條 第三條乃至第五條、第九條又ハ第十條第一項ノ罪ヲ犯スコトヲ誘惑シ又ハ煽動シタル者ノ罰亦前項ニ同ジ

第十四條 第三條乃至第五條、第九條又ハ第十條第一項ノ罪ヲ犯スル目的ヲ以テ

其ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第十五條 第八條ノ罪ヲ犯スル目的ヲ以テ其ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

第十六條 第四條第一項、第八條、第十條乃至前條ノ罪ヲ犯シタル者未ダ官ニ發覺セザル前自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕シ又ハ免除スルコトヲ得

第十七條 本章ニ規定スル犯罪行爲ヲ組成シタル物、其ノ犯罪行爲ニ供シ若ハ供セントシタル物又ハ其ノ犯罪行爲ヨリ生ジ若ハ之ニ因リ得タル物ハ其ノ物犯人以外ノ者ニ屬セザルトキニ限り之ヲ沒收ス裁判ニ依リ沒收スル場合ヲ除クノ外何人ノ所有タルヲ問ハズ檢査之ヲ沒取スルコトヲ得

第十八條 前項ノ犯罪行爲ノ報酬トシテ得タル物及同項ニ掲グル物ノ對價トシテ得タル物ハ其ノ物犯人以外ノ者ニ屬セザルトキニ限り之ヲ沒收ス其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第二章 刑事手續

第十六條 本章ノ規定ハ左ニ掲グル罪ニ關スル事件ニ付之ヲ適用ス

一 第三條乃至第十三條ノ罪
二 軍機保護法第二條乃至第七條及此等ニ關スル第十五條乃至第十七條、軍用資源祕密保護法第十一條乃至第十五條、第十九條、刑法第一編第三章、

陸軍刑法第二十七條乃至第二十九條及此等ニ關スル第三十一條、第三十二條、第三十四條、海軍刑法第二十二條乃至第二十四條及此等ニ關スル第二十六條、第二十七條、第二十九條並ニ國家總動員法第四十四條ノ罪

本章ノ規定ハ外國ト通謀シ又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ犯シタル左ニ掲グル罪ニ關スル事件ニ付亦之ヲ適用ス

軍機保護法(前項第二號ニ掲グル罪ヲ除ク)、軍用資源祕密保護法(前項第二號ニ掲グル罪ヲ除ク)、要塞地帶法、陸軍輸送港域軍事取締法、明治二十三年法律第八十三號(軍港要港規則違犯者處分ノ件)、軍用電氣通信法、國境取締法、刑法第一編第一章、第二章、第四章、第八章乃至第十一章、第十五章乃至第十八章、第二十六條、第二十七條及第四十章、朝鮮刑事令第三條、陸軍刑法第二編第一章(前項第二號ニ掲グル罪ヲ除ク)、第八章及第九十九條、海軍刑法第二編第一章(前項第二號ニ掲グル罪ヲ除ク)、第八章及第百條、治安維持法、大正十五年法律第六十號(暴力行爲等處罰ニ關スル法律)、爆發物取締罰則、匪徒刑罰令明治三十一年律令第二十四號、不穩文書臨時取締法、通貨及證券模造取締法、通貨及證券模造取締規則(明治三十六年律令第十

（四號）明治三十八年法律第六十六號
（外國ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券
證券偽造變造及模造ニ關スル法律）、
治安警察法、大正八年制令第七號、政
治ニ關スル犯罪處罰ノ件）、外國爲替
管理法、關稅法、昭和十二年法律第九
十二號（輸出入品等ニ關スル臨時措
置ニ關スル法律）、船舶法、航空法、
電信法、無線電信法並ニ國家總動員
法（前項第二號ニ掲グル罪ヲ除ク）
ノ罪

第十七條 檢事ハ被疑者ヲ召喚シ又ハ其ノ
召喚ヲ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

檢事ノ命令ニ因リ司法警察官ノ發スル
召喚狀ニハ命令ヲ爲シタル檢事ノ職、氏
名及其ノ命令ニ因リ之ヲ發スル旨ヲモ
記載スベシ

召喚狀ノ送達ニ關スル裁判所書記及執
達吏ニ屬スル職務ハ司法警察官吏之ヲ
行フコトヲ得

第十八條 被疑者正當ノ事由ナクシテ前
條ノ規定ニ依ル召喚ニ應ゼズ又ハ刑事
訴訟法第八十七條第一項各號ニ規定ス
ル事由アルトキハ檢事ハ被疑者ヲ勾引
シ又ハ其ノ勾引ヲ他ノ檢事ニ囑託シ若
ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得
前條第二項ノ規定ハ檢事ノ命令ニ因リ
司法警察官ノ發スル勾引狀ニ付之ヲ準
用ス

第十九條 勾引シタル被疑者ハ指定セラ
レタル場所ニ引致シタル時ヨリ四十八

時間内ニ檢事又ハ司法警察官之ヲ訊問
スベシ其ノ時間内ニ勾留狀ヲ發セザル
トキハ檢事ハ被疑者ヲ釋放シ又ハ司法
警察官ヲシテ之ヲ釋放セシムベシ
第二十條 刑事訴訟法第八十七條第一項
各號ニ規定スル事由アルトキハ檢事ハ
被疑者ヲ勾留シ又ハ其ノ勾留ヲ司法警
察官ニ命令スルコトヲ得

第十七條第二項ノ規定ハ檢事ノ命令ニ
因リ司法警察官ノ發スル勾留狀ニ付之
ヲ準用ス

第二十一條 勾留ニ付テハ警察官署又ハ
憲兵隊ノ留置場ヲ以テ監獄ニ代用スル
コトヲ得

第二十二條 勾留ノ期間ハ二月トス特ニ
繼續ノ必要アルトキハ區裁判所檢事ハ
檢事正ノ許可、地方裁判所檢事ハ檢事
長ノ許可ヲ受ケ一月毎ニ之ヲ更新スル
コトヲ得但シ通ジテ四月ヲ超ユルコト
ヲ得ズ

治安維持法ノ罪ニ付特ニ繼續ノ必要アル
ルトキハ檢事長ノ許可ヲ受ケ一月毎ニ
勾留ノ期間ヲ更新スルコトヲ得但シ通
ジテ一年ヲ超ユルコトヲ得ズ
檢事總長又ハ其ノ指揮ヲ受ケタル檢事
刑法第七十三條、第七十五條又ハ第七
十七條乃至第七十九條ノ罪ノ捜査ノ爲
特ニ繼續ノ必要アルトキハ一月毎ニ勾
留ノ期間ヲ更新スルコトヲ得但シ通ジ
テ六月ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二十三條 勾留ノ事由消滅シ其ノ他勾

留ヲ繼續スルノ必要ナシト思料スルト
キハ檢事ハ速ニ被疑者ヲ釋放シ又ハ司
法警察官ヲシテ之ヲ釋放セシムベシ
第二十四條 檢事ハ被疑者ノ住居ヲ制限
シテ勾留ノ執行ヲ停止スルコトヲ得
刑事訴訟法第十九條第一項ニ規定ス
ル事由アル場合ニ於テハ檢事ハ勾留ノ
執行停止ヲ取消スコトヲ得

第二十五條 檢事ハ被疑者ヲ訊問シ又ハ
其ノ訊問ヲ司法警察官ニ命令スルコト
ヲ得

檢事ハ公訴提起前ニ限り證人ヲ訊問シ
又ハ其ノ訊問ヲ他ノ檢事ニ囑託シ若ハ
司法警察官ニ命令スルコトヲ得

司法警察官檢事ノ命令ニ因リ被疑者又
ハ證人ヲ訊問シタルトキハ命令ヲ爲シ
タル檢事ノ職、氏名及其ノ命令ニ因リ訊
問シタル旨ヲ訊問調書ニ記載スベシ
第十七條第二項及第三項ノ規定ハ證人
訊問ニ付之ヲ準用ス

第二十六條 檢事ハ公訴提起前ニ限り押
收、搜索若ハ檢證ヲ爲シ又ハ其ノ處分
ヲ他ノ檢事ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ
命令スルコトヲ得
檢事ハ公訴提起前ニ限り鑑定、通譯若
ハ翻譯ヲ命ジ又ハ其ノ處分ヲ他ノ檢事
ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコ
トヲ得
前條第三項ノ規定ハ押收、搜索又ハ檢
證ノ調書及鑑定人、通事又ハ翻譯人ノ
訊問調書ニ付之ヲ準用ス

訊問調書ニ付之ヲ準用ス

第十七條第二項及第三項ノ規定ハ鑑
定、通譯及翻譯ニ付之ヲ準用ス
第二十七條 刑事訴訟法中被告人ノ召
喚、勾引及勾留、被告人及證人ノ訊問、
押收、搜索、檢證、鑑定、通譯並ニ翻譯ニ
關スル規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク
ノ外被疑事件ニ付之ヲ準用ス但シ保釋
及責付ニ關スル規定ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十八條 外國船舶又ハ外國航空機法
律又ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依ル禁
止又ハ制限ニ違反シ當該禁止又ハ制限
ニ係ル區域ニ侵入シタル場合ニ於テ檢
事搜查ノ爲ニ必要アルトキハ其ノ船舶若
ハ航空機ニ對シ指定ノ場所ニ廻航スベキ
コトヲ命ジ若ハ之ヲ抑留シ又ハ其ノ船
舶若ハ航空機ノ長、乗組員及乗客ニ對
シ指定ノ場所ニ滯留スベキコトヲ命ズ
ルコトヲ得

檢事ハ前項ノ規定ニ依ル處分ヲ司法警
察官ニ命令スルコトヲ得
前二項ノ規定ハ第十六條ニ規定スル罪
以外ノ罪ニ關スル事件ニ付亦之ヲ適用
ス
第二十九條 辯護人ハ司法大臣ノ豫メ指
定シタル辯護士ノ中ヨリ之ヲ選任スベ
シ但シ刑事訴訟法第四十條第二項ノ規
定ノ適用ヲ妨ゲズ
第三十條 辯護人ノ數ハ被告人一人ニ付
二人ヲ超ユルコトヲ得ズ
辯護人ノ選任ハ最初ニ定メタル公判期
日ニ係ル召喚狀ノ送達ヲ受ケタル日ヨ

リ十日ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ但シ已ムコトヲ得ザル事由アル場合ニ於テ裁判所ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三十一條 辯護人ハ審判ヲ公開シタル公判廷ニ於テ口頭辯論ヲ爲ス場合ニハ國家機密、軍事上ノ秘密、軍用資源秘密又ハ官廳指定ノ總動員業務ニ關スル官廳ノ機密ヲ陳述スルコトヲ得ズ此ノ場合ニ於テ辯護人ハ其ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ陳述ニ代フルコトヲ得

第三十二條 辯護人ハ訴訟ニ關スル書類ノ謄寫ヲ爲サントスルトキハ裁判長又ハ豫審判事ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス辯護人ノ訴訟ニ關スル書類ノ閱覽ハ裁判長又ハ豫審判事ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ爲スベシ

第三十三條 第十六條第一項ニ掲グル罪又ハ外國ト通謀シ若ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ同條第二項ニ掲グル罪ヲ犯シタルモノト認メタル第一審ノ判決ニ對シテハ控訴ヲ爲スコトヲ得ズ前項ニ規定スル第一審ノ判決ニ對シテハ直接上告ヲ爲スコトヲ得

上告ハ刑事訴訟法ニ依ルノ外同法ニ於テ第二審ノ判決ニ對シテ上告ヲ爲スコトヲ得ル理由アル場合ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

ベシ

第三十四條 裁判所ハ外國ト通謀シ又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ第十六條第二項ニ掲グル罪ヲ犯シタルモノト認メタルトキハ其ノ旨ヲ判決ニ揭示スベシ

前項ノ摘示ヲ爲シタル第一審判決ニ對シテ上告アリタル場合ニ於テ上告裁判所外國ト通謀シ又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ犯シタルモノニ非ザルコトヲ疑フニ足ルベキ顯著ナル事由アルモノト認ムルトキハ判決ヲ以テ原判決ヲ破毀シ事件ヲ管轄控訴裁判所ニ移送スベシ

第十六條ニ掲グル罪ヲ犯シタルモノト認メタル第一審判決ニ對シテ上告アリタル場合ニ於テ上告裁判所同條ニ掲グル罪ヲ犯シタルモノニ非ザルコトヲ疑フニ足ルベキ顯著ナル事由アルモノト認ムルトキ亦前項ニ同ジ

第三十五條 上告裁判所ハ公判期日ノ通知ニ付テハ刑事訴訟法第四百二十二條第一項ノ期間ニ依ラザルコトヲ得

第三十六條 裁判所ハ本章ノ規定ノ適用ヲ受クル罪ニ關スル訴訟ニ付テハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ラズ速ニ其ノ裁判ヲ爲スベシ

定アル場合ヲ除クノ外一般ノ規定ノ適用アルモノトス

第三十九條 本章ノ規定ハ第二十一條、第二十二條、第二十八條、第二十九條、第三十條第一項、第三十三條、第三十四條及第三十七條ノ規定ヲ除クノ外軍法會議ノ刑事手續ニ付テ之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テ刑事訴訟法第八十七條第一項トアルハ陸軍軍法會議法第四百四十三條又ハ海軍軍法會議法第四百四十三條、刑事訴訟法第四百二十二條第一項トアルハ陸軍軍法會議法第四百四十四條第一項又ハ海軍軍法會議法第四百四十六條第一項トシ第二十四條第二項中刑事訴訟法第四百十九條第一項ニ規定スル事由アル場合ニ於テハトアルハ何時ニテモトス

第四十條 朝鮮及臺灣ニ在リテハ本章ニ掲グル法律ハ制令又ハ律令ニ於テ依ル場合ヲ含ム朝鮮ニ在リテハ第二十二條第三項中刑法第七十三條、第七十五條又ハ第七十七條乃至第七十九條トアルハ刑法第七十三條、第七十五條若ハ第七十七條乃至第七十九條又ハ朝鮮刑事令第三條トシ第三十五條中刑事訴訟法第四百二十二條第一項トアルハ朝鮮刑事令第三十一條トス

朝鮮ニ在リテハ本章中司法大臣トアルハ朝鮮總督、檢事總長トアルハ高等法院檢事長、檢事長又ハ檢事正トアルハ

臺灣ニ在リテハ本章中司法大臣トアルハ臺灣總督、檢事總長又ハ檢事長トアルハ高等法院檢事長、地方裁判所檢事又ハ

區裁判所檢事トアルハ地方法院檢事トス

臺灣ニ在リテハ本章中司法大臣トアルハ臺灣總督、檢事總長又ハ檢事長トアルハ高等法院檢事長、地方裁判所檢事又ハ區裁判所檢事トアルハ地方法院檢察官又ハ地方法院支部檢察官、檢事トアルハ檢察官、豫審判事トアルハ豫審判官トス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム本法ハ内地、朝鮮、臺灣及樺太ニ之ヲ施行ス

第二章ノ規定ハ本法施行前公訴ヲ提起シタル事件ニ付テハ之ヲ適用セズ

本法施行前朝鮮刑事令第十二條乃至第十五條ノ規定ニ依リ爲シタル捜査手續ハ本法施行後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

前項ノ捜査手續ニシテ本法ニ之ニ相當スル規定アルモノハ之ヲ本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス

〔國務大臣(柳川平助君) 國防保安法案提出ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、近代戰ニ於キマシテハ、諜報、宣傳、謀略等ノ秘密手段ガ、作戰地ハ固ヨリ國內ニ於テモ極メテ活潑ニ行ハレテ居リマスコトハ、既ニ普ク御承知ノ所ト存ズル次第デアリマス、即チ敵性國ハ、單ニ軍事ニ關スル事項ニ止マラズ外交、財政、經濟等各方面ニ互ル國家ノ

重要機密ハ言フ迄モナク、尙廣ク國力ヲ探知收集致シマシテ軍事、外交ニ利用スル外、殊ニ獲得資料ヲ利用シテ積極的ニ或ハ宣傳ヲ、或ハ謀略ヲ敢行シ、以テ相手國ヲ内部

のニ崩壊セシメムトシツ、アルノデアリマス、而シテ戰爭ガ持久性ヲ帶ブルニ從ヒマシテ、斯クノ如キ秘密手段ハ益々活潑トナリ、戰爭ノ勝敗ニ重大ノ影響ヲ招來スルノデアリマス、我方國現下ノ情勢ハ、又敵性國ノ

秘密戰の策動ヲ封殺シテ、總力戰能勢ノ強化ヲ圖ルノ急務ナルモノガアルノデアリマス、願ヒマスルニ、我方國ニ於キマシテハ、軍機保護法其ノ他軍事上ノ秘密ヲ保護スベキ法規ハ現ニ存在シテ居リマスガ、前述ノ

如キ廣範圍ニ屬スル國家ノ重要機密ヲ保護スベキ法規、竝ニ外國ノ行フベキ宣傳謀略ヲ防止スベキ法規ハ、遺憾ナガラ未ダ不備ナルヲ免レナイノデアリマシテ、此ノ際

等ニ對處スベキ罰則ヲ設クルノ必要アリト思料致スノデアリマス、又是ト同時ニ、右ノ國家機密ノミナラズ、既存ノ法律ニ規定セラレテ居ル所ノ軍事上ノ秘密等ニ關スル罪

其ノ他外國ノ諜報、謀略活動ヲ防止スベキ法令ノ違反事件ノ搜查ニ付テハ、搜查機關ヲシテ一元的ニ連絡統一アル活動ニ依リ、一舉ニシテ外國ノ諜報謀略網ヲ檢舉セシメ且搜查手續ノ敏速適正ヲ圖リ、又裁判手續

モ之ヲ敏速化シ、且審判ノ過程ニ於テ國家ノ重要ナル機密ノ外部ニ漏泄スルコトヲ防止スル等ノ爲ニ必要ナル規定ヲ設ケ、以テ戰時下ニ於ケル國防國家體制ノ完璧ヲ期ス

ルコトハ喫緊ノ要務デアルト思料致スノデアリマス、何卒慎重御審議ノ上速カニ御協賛ヲ與ヘラレムコトヲ切望致ス次第デアリマス

○子爵戸澤正己君 只今議題トナリマシタ國防保安法案ハ、重要ナル法案デアリマスルガ故ニ、此ノ特別委員ノ數ヲ二十七名トシ、其ノ委員ノ指名ヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ提出致シマス

○子爵秋田重季君 贊成
○假議長(公爵徳川罔順君) 戸澤子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○假議長(公爵徳川罔順君) 御異議ナイト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス〔近藤書記官朗讀〕
國防保安法案特別委員

- 公爵桂 廣太郎君 侯爵大隈 信常君
- 侯爵中御門經恭君 伯爵林 博太郎君
- 子爵伊東二郎丸君 子爵谷 儀一君
- 子爵西尾 忠方君 子爵裏松 友光君
- 松井 茂君 小原 直君
- 男爵東久世秀雄君 下條 康麿君
- 廣瀨 久忠君 内田 重成君
- 建部 遼吾君 伍堂 卓雄君
- 男爵淺田 良逸君 男爵柴山 昌生君
- 黑崎 定三君 男爵奥田 剛郎君
- 宮田 光雄君 澤田 牛麿君
- 松村 義一君 唐澤 俊樹君
- 菅澤 重雄君 岡部長右衛門君
- 中野 敏雄君

○假議長(公爵徳川罔順君) 日程第六、帝都高速度交通營團法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、小川鐵道大臣

帝都高速度交通營團法案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和十六年二月八日
衆議院議長 小山 松壽
貴族院議長 伯爵松平頼壽殿

第一章 總則
第一條 帝都高速度交通營團ハ東京市及其ノ附近ニ於ケル交通機關ノ整備擴充ヲ圖ル爲地下高速度交通事業ヲ營ムコトヲ目的トスル法人トス

帝都高速度交通營團ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ前項ノ事業ニ關聯スル事業ヲ營ミ又ハ之ニ投資スルコトヲ得
第二條 帝都高速度交通營團ノ資本金ハ六千萬圓トシ之ヲ六十萬圓ニ分チ一口ノ出資金額ヲ百圓トス但シ資本金ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ増加スルコトヲ得

第三條 帝都高速度交通營團ノ出資者ハ政府、公共團體、帝國臣民又ハ帝國法人ニシテ社員、株主若ハ業務ヲ執行スル役員ノ半數以上、資本ノ半額以上若ハ議決權ノ過半數ガ外國人若ハ外國法人ニ屬セザルモノタルコトヲ要ス

第四條 帝都高速度交通營團ハ出資ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ依リ出資證券ヲ發行ス
第五條 政府ハ四千萬圓ヲ限リ帝都高速度交通營團ニ出資スルコトヲ得
前項ノ出資ハ帝國鐵道會計ノ資本勘定ノ歳出トシ之ニ因リ取得シタル出資證券ハ同會計ノ資本所屬物件トス

第六條 政府又ハ公共團體ガ帝都高速度交通營團ニ出資シタル場合ニ於テハ其ノ引受ケタル出資ノ出資金拂込ハ其ノ他ノ出資ノ出資金拂込ト之ヲ異ニスルコトヲ得
第七條 帝都高速度交通營團ノ出資者ノ責任ハ其ノ出資額ヲ限度トス
出資者ハ帝都高速度交通營團ニ拂込ムベキ出資金額ニ付相殺ヲ以テ之ニ對抗スルコトヲ得ズ

第八條 出資者ハ帝都高速度交通營團ノ承認ヲ經テ其ノ持分ヲ讓渡スコトヲ得
第九條 拂込ヲ怠リタル出資者ニ對シ帝都高速度交通營團ガ一月以上ノ相當ノ期間ヲ定メ拂込ノ請求ヲ爲シタルニ拘ラス出資者ガ拂込ヲ爲サザルトキハ帝都高速度交通營團ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ出資者ノ持分ヲ處分スルコトヲ得

帝都高速度交通營團ハ持分ノ處分ニ依リテ得タル金額ヨリ滯納金額及定款ヲ以テ定メタル違約金ノ額ヲ控除シタル

金額ヲ從前ノ出資者ニ拂戻スコトヲ要ス

持分ノ處分ニ依リテ得タル金額ガ滞納金額ニ滿タザル場合ニ於テハ帝都高速度交通營團ハ從前ノ出資者ニ對シ不足額ノ辨濟ヲ請求スルコトヲ得

前三項ノ規定ハ帝都高速度交通營團ガ損害賠償及定款ヲ以テ定メタル違約金ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ゲズ

出資者ガ第一項ノ期間内ニ拂込ヲ爲サザルトキハ帝都高速度交通營團ハ其ノ出資者ニ對シ二週間内ニ出資證券ヲ帝都高速度交通營團ニ提出スベキ旨ヲ通知スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ提出ナキ出資證券ハ其ノ效力ヲ失フ

前項ノ場合ニ於テハ帝都高速度交通營團ハ遲滞ナク失効シタル出資證券ノ番號竝ニ其ノ出資者ノ氏名及住所ヲ公告スルコトヲ要ス

第十條 帝都高速度交通營團ハ定款ヲ以テ左ノ事項ヲ規定スベシ

- 一 目的
- 二 名稱
- 三 事務所ノ所在地
- 四 資本金額、出資及資産ニ關スル事項
- 五 役員及會議ニ關スル事項
- 六 業務及其ノ執行ニ關スル事項
- 七 交通債券ノ發行ニ關スル事項
- 八 會計ニ關スル事項

九 公告ノ方法

第十一條 帝都高速度交通營團ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ハ登記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第十二條 帝都高速度交通營團ニ付解散ヲ必要トスル事由發生シタル場合ニ於テ其ノ處置ニ關シテハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 帝都高速度交通營團ニ非ザル者ハ帝都高速度交通營團又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用フルコトヲ得ズ

第十四條 民法第四十四條、第五十條、第五十一條第一項、第五十四條及第五十七條竝ニ非訟事件手續法第三十五條第一項ノ規定ハ帝都高速度交通營團ニ之ヲ準用ス

第二章 役員

第十五條 帝都高速度交通營團ニ總裁副總裁各一人、理事五人以上及監事三人以上ヲ置ク

第十六條 總裁ハ帝都高速度交通營團ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス副總裁ハ總裁事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ總裁缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

副總裁及理事ハ總裁ヲ輔佐シ定款ノ定ムル所ニ依リ帝都高速度交通營團ノ業務ヲ分掌シ又ハ之ニ參與ス

監事ハ帝都高速度交通營團ノ業務ヲ監督ス

第十七條 總裁、副總裁、理事及監事ハ主務大臣之ヲ命ジ總裁及副總裁ノ任期ハ五年、理事ノ任期ハ四年、監事ノ任期ハ三年トス

第十八條 總裁、副總裁及業務ヲ分掌スル理事ハ他ノ職業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十九條 帝都高速度交通營團ニ評議員若干人ヲ置キ主務大臣之ヲ命ズ

評議員ハ事業經營ニ關スル重要事項ニ付總裁ノ諮問ニ應ジ必要アルトキハ之ニ對シ意見ヲ述ブルコトヲ得

評議員ハ名譽職トシ其ノ任期ハ三年トス

第三章 交通債券

第二十條 帝都高速度交通營團ハ拂込資本金額ノ十倍ヲ限リ交通債券ヲ發行スルコトヲ得

第二十一條 交通債券ハ額面金額五十圓以上トシ無記名利札付トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名式ト爲スコトヲ得

交通債券ハ割引ノ方法ヲ以テ之ヲ發行スルコトヲ得

第二十二條 帝都高速度交通營團ハ交通債券兌換ノ爲一時第二十條ノ制限ニ依ラズ交通債券ヲ發行スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ交通債券ヲ發行シタルトキハ發行後一月内ニ其ノ發行額面金額ニ相當スル舊交通債券ヲ償還スベシ

第二十三條 交通債券ハ賣出ノ方法ヲ以テ之ヲ發行スルコトヲ得

第二十四條 帝國鐵道會計ハ豫算ノ範圍内ニ於テ交通債券ノ引受ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ引受ニ要スル支出ハ同會計ノ資本勘定ノ歲出トシ其ノ引受ケタル交通債券ハ同會計ノ資本所屬物件トス

第二十五條 帝都高速度交通營團ニ於テ交通債券ヲ發行セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第二十六條 政府ハ交通債券ノ元利支拂ヲ保證スルコトヲ得

前項ノ保證ニ因ル政府ノ支出ハ帝國鐵道會計ノ收益勘定ノ歲出トス

第二十七條 帝都高速度交通營團ハ地下高速度交通事業又ハ之ニ關聯スル事業ノ讓受代價ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ支拂保證アル交通債券ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得

第二十八條 交通債券ノ消滅時効ハ元金ニ在リテハ十五年、利子ニ在リテハ五年ヲ以テ完成ス

第二十九條 交通債券ノ所有者ハ帝都高速度交通營團ノ財産ニ付他ノ債權者ニ先テ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

前項ノ規定ハ民法上ノ一般ノ先取特權ノ行使ヲ妨グルコトナシ

第三十條 所得稅法及有價證券移轉稅法中國債以外ノ公債ニ關スル規定ハ交通債券ニ之ヲ準用ス

第三十一條 本章ニ規定スルモノノ外交通債券ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四章 會計

第三十二條 帝都高速度交通營團ノ專業年度ハ四月ヨリ九月迄及十月ヨリ翌年三月迄トス

第三十三條 帝都高速度交通營團ハ其ノ資本金ノ四分ノ一ニ達スル迄ハ每專業年度ニ於テ準備金トシテ利益金ノ百分ノ十以上ヲ積立ツベシ

第三十四條 帝都高速度交通營團ハ拂込ミタル出資金額ニ對シ勅令ヲ以テ定ムル割合ヲ超エテ利益金ノ配當ヲ爲スコトヲ得ズ

帝都高速度交通營團ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ政府ノ出資ニ對シ利益金ノ配當ヲ減額シ又ハ之ヲ爲サザルコトヲ得

第五章 監督及助成

第三十五條 帝都高速度交通營團ハ主務大臣之ヲ監督ス

第三十六條 定款ノ變更及利益金ノ處分ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第三十七條 主務大臣ハ帝都高速度交通營團ニ對シ監督上必要ナル命令ヲ爲ス

コトヲ得

主務大臣ハ部下ノ官吏ヲシテ何時ニテモ帝都高速度交通營團ノ金庫、帳簿及諸般ノ文書物件ヲ検査セシムルコトヲ得

第三十八條 主務大臣ハ帝都高速度交通營團ニ對シ地下高速度鐵道ノ建設又ハ改良ヲ命ズルコトヲ得

第三十九條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ豫算ノ範圍内ニ於テ帝都高速度交通營團ニ補助金ヲ交付スルコトヲ得

第四十條 帝都高速度交通營團ハ地下高速度鐵道ノ建設又ハ改良工事施行ノ爲地下埋設物ノ移轉其ノ他ノ工事ノ施行ヲ必要トスル場合ニ在リテハ其ノ工事ノ施行方法又ハ其ノ工事ノ施行ニ因リテ生ズル損失ノ補償ニ付當該管理者ト協議ヲ爲スベシ但シ法令ニ別段ノ規定アル場合ハ其ノ規定ノ適用ヲ妨グズ

前項ノ協議ヲ爲スコト能ハザルトキ又ハ協議調ハザルトキハ帝都高速度交通營團ノ申請ニ因リ主務大臣之ヲ裁定ス

前項ノ裁定中損失ノ補償ニ付不服アル者ハ協議ノ相手方ヲ被告トシ裁定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ訴訟ハ裁定ノ效力ヲ停止セズ

第四十一條 帝都高速度交通營團ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ年及其ノ翌年ヨリ十年間本法施行後新設又ハ増設シタル設備ヲ以テ營ム地下高速度

鐵道專業ニ付所得ニ對スル法人稅及營業稅ヲ免除ス

前項ノ專業ヨリ生ズル所得又ハ純益ガ各專業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル所得又ハ純益ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セズ

但シ本法施行ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ資本金額ノ計算方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十二條 役員ガ法令、定款若ハ主務大臣ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ之ヲ解任スルコトヲ得

第六章 罰則

第四十三條 帝都高速度交通營團本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ總裁又ハ總裁ノ職務ヲ行ヒ若ハ代理スル副總裁ヲ五千圓以下ノ過料ニ處ス副總裁又ハ理事ノ分掌業務ニ係ルトキハ副總裁又ハ理事ヲ過料ニ處スルコト亦同ジ

第四十四條 帝都高速度交通營團ノ總裁、副總裁又ハ業務ヲ分掌スル理事第十八條ノ規定ニ違反シ他ノ職業ニ從事シタルトキハ千圓以下ノ過料ニ處ス

第四十五條 第十三條ノ規定ニ違反シ帝都高速度交通營團又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用ヒタル者ハ千圓以下ノ過料ニ處ス

附則

第四十六條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十七條 主務大臣ハ設立委員ヲ命ジ帝都高速度交通營團ノ設立ニ關スル事務ヲ處理セシム

第四十八條 設立委員ハ定款ヲ作成シ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

前項ノ認可アリタルトキハ設立委員ハ出資者ヲ募集スベシ

第四十九條 設立委員ハ出資者ノ募集ヲ終リタルトキハ出資申込書ヲ主務大臣ニ提出シ設立ノ認可ヲ申請スベシ

前項ノ認可ヲ受ケタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク出資第一回ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第五十條 出資第一回ノ拂込完了シタルトキハ出資者ノ總會ヲ召集スベシ

前項ノ總會終結シタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク其ノ事務ヲ帝都高速度交通營團總裁ニ引渡スベシ

總裁前項ノ事務ノ引渡ヲ受ケタルトキハ總裁、副總裁、理事及監事ノ全員ハ事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スベシ

帝都高速度交通營團ハ設立ノ登記ヲ爲スニ因リテ成立ス

第五十一條 本法ニ規定スルモノノ外帝都高速度交通營團ノ設立ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十二條 陸上交通專業ヲ營ム會社ガ

陸上交通事業調整法第二條ノ命令ニ依リ帝都高速度交通營團ニ事業ノ讓渡ヲ爲シタルトキハ其ノ讓渡ニ因リ取得シタル交通債券ノ價格ニ關シ讓渡ヲ爲シタル事業年度ニ於ケル法人税法ニ依ル所得、營業税法ニ依ル純益及臨時利得税法ニ依ル利益ノ計算ニ付命令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

第五十三條 帝都高速度交通營團ニ事業ノ讓渡ヲ爲シテ解散シタル會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ時價ヲ以テ交通債券ヲ殘餘財産ノ分配金ニ充ツルコトヲ得

第五十四條 帝都高速度交通營團ハ陸上交通事業調整法第二條ノ命令ニ基キ鐵道財團ニ屬スルモノノ全部ヲ讓受ケタルトキハ該鐵道財團及之ヲ擔保トスル借入金又ハ社債ノ元利支拂義務ヲ承繼ス

前項ノ場合ニ於テ帝都高速度交通營團ニ屬シタル鐵道財團ハ從前ト同一ノ態様ニ於テ前項ノ元利支拂義務ヲ擔保ス

第一項ノ規定ニ依リ社債ノ元利支拂義務ノ承繼アリタル場合ニ於テ其ノ債務ニ付テハ社債ニ關スル法令ヲ準用ス

前項ノ規定ニ依リ社債ノ元利支拂義務ノ承繼アリタル場合ニ於テ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十五條 登錄税法中第六條ノ三ヲ第六條ノ四トシ第六條ノ二ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第六條ノ三 帝都高速度交通營團ガ交通債券ニ付登記ヲ受クルトキハ左ノ

區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムベシ

一 交通債券ノ拂込
 拂込金額 千分ノ二
 二 登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止
 每一件 金十圓

第五十六條 登錄税法第十九條第七號中「庶民金庫」ノ下ニ「帝都高速度交通營團」ヲ、「庶民金庫法」ノ下ニ「帝都高速度交通營團法」ヲ加フ

第五十七條 印紙税法第五條中第六號ノ二ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ
 六ノ三 帝都高速度交通營團ノ發スル出資證券

〔國務大臣小川郷太郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(小川郷太郎君) 只今上程サレマシタ帝都高速度交通營團法案ノ提出理由ヲ御説明申上ゲマス、帝都ニ於ケル交通量ハ近年益々激増シツ、アルニ拘リマセズ、交通機關、特ニ地下鐵道ガ不足シテ居リマシテ、到底圓滑且迅速ナル輸送ヲ爲スコトヲ得ナイ状態デアリマス、更ニ又地下鐵道ハ、空襲下ニ於ケル唯一ノ交通機關トシテ必要缺クベカラザル施設デアリマスカラ、帝都ニ於ケル地下鐵道ヲ整備擴充シマスコトハ、平戰兩時ノ交通上竝ニ防空上焦眉ノ急務デアルト考ヘラレルノデアリマス、仍テ之ガ具體的方策ニ付テ種々考究スルト共ニ、他方交通事業調整委員會ノ意見ヲモ微シマシテ、其ノ結果、地下鐵道ノ急速ナル整備擴充ヲ行フガ爲ニ、最モ適應スル有力ナル特殊ノ機關ヲ設立致シマシテ、之ヲシテ現在

ノ地下鐵道ノ全部ヲ買収セシメルト同時ニ、毎年資材ト資金ノ許ス限リ極力建設ヲ促進セシメ、且又政府ニ於テモ之ニ對シ強力ナル監督助成ヲナスコトガ必要デアルト考ヘマシテ、茲ニ本法案ヲ提出シテ次第デアリマス、今其ノ内容ノ主ナルモノヲ申上ゲマスレバ、帝都高速度交通營團ハ東京市及ビ其ノ附近ニ於ケル地下高速度交通事業ヲ營ムコトヲ目的トスル法人ト致シマシテ、其ノ資本金ハ六千萬圓、内四千萬圓ハ政府ガ之ヲ出資スルコトトシテ居リマス、其ノ第一回拂込金一千萬圓ハ昭和十六年度豫算ニ計上致シテ居リマス、而シテ本營團ハ、拂込資本金ノ十倍ヲ限リ交通債券ヲ發行スルコトヲ得ルコトトシマシテ、地下鐵道ノ建設、事業ノ讓受等ニ要スル資金ハ、主トシテ此ノ交通債券ニ依リテ調達セシメタイト考ヘテ居ルノデアリマス、次ニ本營團ニ對スル政府ノ監督助成ニ付キマシテハ、主務大臣ハ特ニ地下鐵道ノ建設又ハ改良ヲ命ジ得ルコトトシ、又政府ハ地下鐵道ノ建設ノ促進ヲ圖ル爲メ、補助金ノ交付其ノ他適當ナル助成方策ヲ執ルコトト致シテ次第デアリマス、何卒御審議ノ上御協賛アラムコトヲ御願ヒ申上ゲマス

○子爵戸澤正己君 只今議題トナリマシタ帝都高速度交通營團法案ハ十八名ノ委員トシ、其ノ委員ノ指名ヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ提出致シマス

○子爵秋田重季君 賛成

○假議長(公爵徳川昭順君) 戸澤子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

假議長(公爵徳川昭順君) 御異議ナイト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス
 (白木書記官朗讀)
 帝都高速度交通營團法案特別委員
 公爵一條 實孝君 侯爵黒田 長禮君
 侯爵久我 通顯君 伯爵柳澤 保承君
 子爵秋元 春朝君 子爵安藤 信昭君
 子爵三島 通陽君 八田 嘉明君
 男爵久保田敬一君 男爵近藤 滋彌君
 男爵神山 嘉瑞君 田所 美治君
 藤沼 庄平君 次田大三郎君
 古島 一雄君 兒玉 謙次君
 大澤徳太郎君 二瓶泰次郎君

○假議長(公爵徳川昭順君) 日程第七、日本發送電株式會社法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、村田源信大臣

日本發送電株式會社法中改正法律案
 右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
 昭和十六年二月八日
 衆議院議長 小山 松壽
 貴族院議長 伯爵松平賴壽殿

日本發送電株式會社法中改正法律案
 日本發送電株式會社法中左ノ通改正ス
 第十七條ノ二 會社ガ第四條ノ規定ニ基キ日本發送電株式會社ニ出資ヲ爲シタルトキハ其ノ出資ニ對シ與ヘラレタル

議ニ御異議ゴザイマセヌカ
 假議長(公爵徳川昭順君) 御異議ナイト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス
 (白木書記官朗讀)
 帝都高速度交通營團法案特別委員
 公爵一條 實孝君 侯爵黒田 長禮君
 侯爵久我 通顯君 伯爵柳澤 保承君
 子爵秋元 春朝君 子爵安藤 信昭君
 子爵三島 通陽君 八田 嘉明君
 男爵久保田敬一君 男爵近藤 滋彌君
 男爵神山 嘉瑞君 田所 美治君
 藤沼 庄平君 次田大三郎君
 古島 一雄君 兒玉 謙次君
 大澤徳太郎君 二瓶泰次郎君

株式ノ價額ニ關シ出資ヲ爲シタル營業年度ニ於ケル法人稅法ニ依ル所得、營業稅法ニ依ル純益及臨時利得稅法ニ依ル利益ノ計算ニ付命令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

第二十九條 削除

第三十條ノ二 日本發送電株式會社ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ昭和十二年七月一日ヨリ昭和二十一年十二月三十一日ニ至ル間ニ於テ新設又ハ増設セラレタル發電設備ヲ以テ營業事業ニ付設備完成ノ年及其ノ翌年ヨリ十年間所得ニ對スル法人稅及營業稅ヲ免除ス

日本發送電株式會社前項ノ設備完成前其ノ設備ノ一部ヲ以テ事業ヲ營ム場合ニ於テモ其ノ事業ニ付所得ニ對スル法人稅及營業稅ヲ免除ス

前二項ノ事業ヨリ生ズル所得又ハ純益ガ每營業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル所得又ハ純益ニ付テハ前二項ノ規定ヲ適用セズ

前項ノ資本金額ノ計算方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條第一項ヲ左ノ如ク改ム

日本發送電株式會社ノ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ拂込ミタル株金額ニ對シ第四營業年度迄ニ在リテハ年百分ノ四、第五營業年度以降ニ

在リテハ年百分ノ六ノ割合ニ達セザルトキ(利益金額ナキトキ及缺損ヲ生ジタルトキヲ含ム)ハ政府ハ第十四營業年度迄之ニ達セシムベキ金額ヲ補給スベシ但シ第五營業年度以降ニ於ケル每營業年度ノ補給金額ハ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ相當スル額及當該年度ニ於テ支拂ヒタル社債ノ利息額ノ合計額ヲ超ユルコトヲ得ズ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム 第三十條ノ二ノ改正規定ハ本法施行後終了スル營業年度分ヨリ之ヲ適用ス

(國務大臣村田省藏君演壇ニ登ル)

○國務大臣(村田省藏君) 只今上程セラレマシタ日本發送電株式會社法中改正法律案ニ付キマシテ提案ノ趣旨ヲ御說明申上ゲマス、申上ゲル迄モナク、電力ハ各種産業ノ原動力トシテ、又國民生活ノ必需トシテ、國防上、産業上將又國民生活上、極メテ重要ナル使命ヲ擔テ居ルノデゴザイマス、從ヒマシテ生産力擴充ノ基本ニシテ國防ノ大本タル電力ニ付キマシテハ、其ノ生産及供給ヲ國家的公益の見地ニ立ッテ最モ合理的ニ計畫運營シ、以テ高度國防國家ノ要請ニ應ジ得ルガ如キ機構ヲ整備充實セシメテ置クコトハ、現下内外ノ情勢ニ鑑ミマシテ喫緊ノ要務デアアルト信ズルノデアリマス、曩ニ第七十三回帝國議會ノ協賛ヲ經テ、他ノ産業部

門ニ先ンジテ電力ノ國家管理ヲ實現シ、國策遂行ノ機關トシテ日本發送電株式會社ノ設立ヲ見マシタノモ、此ノ故ニ外ナラヌト信ズルノデアリマス、然ル處日本發送電株式會社ハ開業後間モナク未會有ノ渴水ニ見舞ハレ、且發電費ニ最モ大キナ關係ヲ有シマスル石炭價格ノ昂騰其ノ品質ノ低下等、事變下種々ノ惡條件ニ遭遇致シマシテ非常ナル苦境ニ陥ッタノデアリマス、政府ハ現下ノ時局ニ鑑ミ、發送電機構ノ強化ヲ期スルノ要緊切ナルモノアルヲ認メルノデアリマスガ、其ノ第一歩トシテ、日本發送電株式會社ノ基礎ヲ鞏固ナラシムルコトガ焦眉ノ急デアルト考ヘルノデアリマス、日本發送電株式會社ノ改善ニ付キマシテハ、政府ハ固ヨリ、會社ニ於キマシテモ亦銳意努力ヲ致シテ居ルノデアリマスルガ、渴水ノ點ハ兎モ角ト致シマシテ、炭價ノ昂騰、炭質ノ低下等ノ問題ハ差向キ之ガ改善ヲ期待シ得ナイノデアリマシテ、此ノ儘ノ狀態ヲ以テ致シマシテハ、本會社ノ重要使命ヲ全ウセシムル上ニ於テ遺憾ノ點アルヲ免レナイモノト認メラレルノデアリマシテ、茲ニ於キマシテ日本發送電株式會社法ヲ改正シテ、租稅ノ減免、配當補給限度ノ引上等ノ方法ヲ講ジマスルト共ニ、之ガ運營ノ基礎ヲ一段ト強化シ、以テ同社ノ使命遂行ニ遺憾ナカラシムルコトト致シタイト存ズル次第デアリマス、御承知ノ如ク内外ノ情勢ハ愈々緊迫ノ度ヲ加ヘテ居ルノデアリマシテ、國ヲ舉

致シテ居ル今日、國防産業ノ基礎デアル電力ノ生産配給ノ機構ヲ強化スルコトハ最モ急務デアアルト信ジマス、何卒御察議ノ上速カニ御協賛アラムコトヲ切望スル次第デゴザイマス

○子爵戶澤正己君 只今上程サレマシタ日本發送電株式會社法中改正法律案ノ特別委員ヲ十八名トシ、其ノ委員ノ指名ヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ提出致シマス

○子爵秋田重季君 贊成

○假議長(公爵德川圀順君) 戶澤子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

(異議ナシ)ト呼フ者アリ

○假議長(公爵德川圀順君) 御異議ナイト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

(佐藤書記官朗讀)

日本發送電株式會社法中改正法律案特別委員

- 公爵二條 弼基君 侯爵細川 護立君
伯爵溝口 直亮君 子爵保科 正昭君
子爵土岐 章君 子爵入江 爲常君
男爵飯田精太郎君 大橋 八郎君
男爵安場 保健君 男爵八代五郎造君
坂野鉄次郎君 稻畑勝太郎君
小倉 正恒君 結城 安次君
松井貞太郎君 麻生 益良君
中野 敏雄君 柴田兵一郎君

○假議長(公爵德川圀順君) 日程第八、關稅定率法中改正法律案、日程第九、昭和十

二年法律第五十七號改正法律案、日程第十一、臨時相續稅法中改正法律案、日程第十一、臨時利得稅法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、是等ノ四案ヲ一括シテ議題ト爲スコトニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○假議長(公爵徳川圀順君) 御異議ナイト認メマス、河田大藏大臣

關稅定率法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十六年二月八日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平頼壽殿

關稅定率法中改正法律案
關稅定率法中左ノ通改正ス

第三條ノ二 本邦ニ近接スル地域ノ生産品ニ對シ必要アルトキハ勅令ヲ以テ地域及物品ヲ指定シ關稅ヲ低減又ハ免除スルコトヲ得

第五條ノ二 第一項中「不當廉賣審査委員會」ヲ「審査ヲ經テ」ヲ削ル

第七條第四號中「燃料用礦油」ヲ「炭化水素油」ニ改ム

第九條第二項中「命令ヲ以テ指定シタル」ノ下ニ「酒精」ヲ加フ

別表輸入稅表中左ノ如ク改ム
第四十號ヲ左ノ如ク改ム

四〇 砂糖

一 蔗糖ノ重量全重量ノ百分ノ八十六ヲ超エサルモノ

二 蔗糖ノ重量全重量ノ百分ノ九十九ノ五ヲ超エサルモノ

三 其ノ他

第四百十二號ヲ左ノ如ク改ム

一一二 炭化水素油(別號ニ掲ケサルモノ)

一 原油、重油及粗油

攝氏十五度ニ於ケル比重

甲 〇・九三四ヲ超エタルモノ

乙 〇・九〇四ヲ超エタルモノ

丙 〇・八六〇ヲ超エタルモノ

丁 其ノ他

但シ蒸餾法ニ依リ攝氏二百十五度迄ニ餾出スル油液ノ原液ノ容量ニ對スル百分率四十ヲ超エタルモノハ四十以上一ヲ増ス毎一キロリットルニ付三十ヲ加フ

每百斤 三・三五

每百斤 三・九五

每百斤 五・三〇

每キロリットル 七・〇〇

每キロリットル 一一・〇〇

每キロリットル 二〇・〇〇

每キロリットル 二四・〇〇

二 其ノ他(動植物性ノ油及脂、石鹼、酒精等ヲ含有スルモノヲ含ム)

攝氏十五度ニ於ケル比重

甲 〇・八〇一七ヲ超エサルモノ

乙 〇・八四九八ヲ超エサルモノ

丙 其ノ他

イ 融解點攝氏十五度ヲ超エサルモノ

ロ 其ノ他

每キロリットル 四七・〇〇

每キロリットル 四二・〇〇

每キロリットル 七二・〇〇

每百キログラム 九・〇〇

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第七條第四號及別表輸入稅表番號第四百十二號ノ改正規定竝ニ附則第二項及第三項後段ノ規定施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

大正十四年法律第五十一號ハ之ヲ廢止ス昭和七年法律第四號別表輸入稅表番號第四百二十號ノ項中「^二和蘭標本色相第一十二號未滿ノモノ」ヲ削リ同第四百十二號ノ項ヲ左ノ如ク改ム

一一二 炭化水素油(別號ニ掲ケサルモノ)

昭和十二年法律第五十七號改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十六年二月八日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平頼壽殿

昭和十二年法律第五十七號改正法律案
關稅定率法別表輸入稅表第四百六十二號ニ掲グル鐵(別號ニ掲ゲタル特殊鋼ヲ除ク)ノ輸入稅ハ當分ノ内ニ之ヲ免除ス

政府特ニ必要アリト認ムルトキハ勅令ニ依リ物品ヲ指定シ前項ノ規定ノ適用ニ付除外ヲ爲スコトヲ得

參照

昭和十二年法律第五十七號ハ鐵ノ輸入稅免除ニ關スル法律ナリ

相續稅法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因ニ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十六年二月八日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平頼壽殿

相續稅法中改正法律案

相續稅法中左ノ通改正ス

第十七條ノ二 相續稅ヲ課スヘキ相續財產ノ價額中不動産ノ價額ヲ相續財產ノ價額ノ二分ノ一ヲ超エル場合ニ於テ相續稅額ヲ千圓以上ナルトキハ納稅義務者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ相續財產タル不動産ニ依リ相續稅ノ物納ヲ求ムルコトヲ得但シ本法施行地ニ住所ヲ有セ

サル者ニ付開始シタル相續ニ對スル相續稅ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
納稅義務者前項ノ規定ニ依リ相續稅ノ物納ヲ求メムトスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ第十三條ノ通知ヲ受ケタル後二十日以内ニ政府ニ申請スヘシ但シ連帶納付ノ責アル納稅義務者ニ在リテハ其ノ一人ヨリ申請スルヲ以テ足ル

政府ハ納稅義務者ノ物納ニ充テムトスル不動産力管理又ハ處分ヲ爲スニ不適當ト認ムルトキハ相續稅審査委員會ノ諮問ヲ經テ其ノ變換ヲ命シ又ハ物納ヲ許可セサルコトヲ得
政府ハ相續財產ノ狀況ニ依リ税金ノ納付力容易ニシテ物納ヲ許可スルノ必要ナシト認ムルトキハ相續稅審査委員會ノ諮問ヲ經テ之ヲ許可セサルコトヲ得
納稅義務者相續稅ノ物納ノ申請ヲ爲シタル場合ニ於テ物納ニ充テムトスル不動産ノ變換ヲ命セラレタルトキ又ハ物納ヲ許可セラレサルトキハ當該相續稅ニ付テハ前條第三項ノ規定ニ拘ラス其ノ旨ノ通知ヲ受ケタル後二十日以内ニ年賦延納ノ申請ヲ爲スコトヲ得
前條第四項ノ規定ハ第二項及前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第二十三條第四項中「第十條」ノ下ニ「及第十七條ノ二」ヲ加フ

附則
本法ハ昭和十六年四月一日以後開始シタル相續ニ付テ之ヲ適用ス

國有財產整理資金特別會計法第二條但書中「國有林野」ノ上ニ「相續稅物納財產」ヲ加フ
臨時利得稅法中改正法律案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和十六年二月八日
衆議院議長 小山 松壽
貴族院議長 伯爵松平賴壽殿

臨時利得稅法中改正法律案
臨時利得稅法中左ノ通改正ス
第三十一條第三項中「臺灣」ノ下ニ「關東州」ヲ加フ
附則
本法ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○國務大臣(河田烈君) 只今上程致サレマシタル日程第八乃至第十一ノ案件ニ付キマシテ御說明申上ゲマス、先ヅ關稅定率法中改正法律案中ノ主ナル改正事項ニ付テ申上ゲマス、其ノ第一ハ、本邦ニ近接スル地域ノ生産品ニ對シ、勅令ヲ以テ地域及物品ヲ指定シ、其ノ關稅ヲ低減又ハ免除シ、以テ本邦ニ近接スル地域ノ生産品ノ輸入ヲ圓滑ナラシメル爲、新タニ之ニ必要ナル規定ヲ關稅定率法中ニ設ケルコトト致シタ點デアリマス
第二ハ、本法ノ別表輸入稅表中、砂糖及礦油ノ項ノ改正デゴザイマス、砂糖ニ付キマシテハ、現行關稅ガ色相課稅デゴザイマス

ノヲ、砂糖消費稅ニ於ケルト同様糖度課稅ニ改メ、其ノ稅率ハ大體之ヲ現行稅率ノ程度ニ據置クモノデアリマス、礦油ニ付キマシテハ、「礦油」ナル名稱ヲ「炭化水素油」ニ改メ、人造石油ニ付テモ他ノ礦油ト同一ノ稅率ヲ之ニ適用スルコトト致シマシテ、又「原油及重油」ノ項ニ新タニ「粗油」ヲ追加致シマシテ、其ノ稅率ハ各種ノ炭化水素油ヲ通ジテ大體現行稅率ヲ據置ク方針ノ下ニ、負擔割合ノ是正ヲ加味致シマシテ、其ノ端數ヲ整理シ、我が國現下ノ石油需給ノ情勢ヲ適合セシメムトスルモノデゴザイマス、右ノ砂糖及礦油ニ關スル改正ニ付キマシテハ、曩ニ關稅調查委員會ニ諮問致シマシタノデアリマシテ、其ノ答申ニ基キマシテ本案ヲ提出致シタ次第デゴザイマス、次ニ改正ノ第三點、是ハ酒精ノ原料ヲ輸入スル場合ニ於テ、酒精ノ製造ニ使用スルコトヲ條件トシテ、其ノ輸入稅ヲ免除スルコトト致シタ點デゴザイマス、關稅定率法中ノ改正事項ハ大體以上ノ通りデゴザイマスガ、其ノ他之ニ伴ヒマシテ二三必要ナル改正規定ヲ加ヘテ居ルノデゴザイマス、其ノ次ハ昭和十二年法律第五十七號改正法律案デゴザイマス、此ノ法律ハ鐵ノ輸入稅免除ニ關スル法律デゴザイマス、鐵ノ輸入稅ハ、此ノ法律ニ依リマシテ本年六月三十日迄免除セラレルコトニナツテ居ルノデアリマスガ、我が國ニ於ケル其ノ生産、輸入、需給等ノ現狀ニ鑑ミマシテ、尙當分ノ間之ヲ免除スルノヲ適當ト認メマシテ本案ヲ提出シタ次第デゴ

ザイマス、第三ニ、相續稅法中改正法律案ニ付キマシテ御說明申上ゲマス、御承知ノ如ク、最近數次ノ増稅ニ際シマシテ、相續稅ニ付キマシテモ増稅ガ行ハレマシテ、其ノ負擔ハ相當加重セラレテ參ツタノデゴザイマス、然ルニ相續稅ニ付テハ、相續財產中不動産ノ占ムル割合ガ比較的多い場合ニハ、納稅上困難ヲ感ズル者モアリマス、斯カル場合ノ救濟方法ト致シマシテ、現在既ニ相當長イ年賦延納ノ制度ガ設ケラレテ居ルノデアリマスガ、是ノミヲ以テ致シマシテハ尙不十分デアルト存ジマスガ故ニ、相續稅ニ付テハ特ニ物納制度ヲ認ムベキデアルト云フ議論ガ從來カラゴザイマス、殊ニ昨年第七十五回帝國議會ニ於キマシテ、稅制改正案審議ニ當リマシテ此ノ事ガ強ク要望セラレタヤウナ次第デゴザイマス、元來租稅ニ付キマシテ、物納ノ制度ヲ認ムルコトハ、餘程ノ例外デゴザイマシテ、歲入制度上、稅務行政上、種々問題ガアルノデゴザイマスガ、當局ト致シマシテハ是等ノ論議ニ顧ミマシテ、相續稅物納制度調查會ヲ設ケマシテ、慎重ニ考究ヲ重ネマシタ結果、此ノ際相續財產中不動産ノ占ムル割合比較的多イ者ニハ、相續財產タル不動産ニ依リ物納ヲ認メマシテ、此ノ際多年ノ懸案ヲ解決スルヲ適當ト認メマシタノデ、茲ニ相續稅法ノ改正法律案トシテ提案致シタ次第デゴザイマス、尙案ノ詳細ニ付キマシテハ他日ノ機會ニ於テ申上ゲタイト存ジマス、最後ニ臨時利得稅法中改正法律案、關東州ニ於キマ

シテハ、從來臨時利得税ハ法人ニ對シテノミ課税セラレテ居ツタノデゴザイマスガ、今回新タニ個人ニ對シモテ課税スルコトト相成リマシタノデ、關東州ニ住所ヲ有シ、又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ガ、本法施行地ニ資産又ハ營業ヲ有スル場合ニ於キマシテ生ズルベキ重複課税ヲ避ケル爲ニ本案ヲ提出致シタ次第ゴザイマス、以上各案ニ付キマシテ、十分御審議ノ上御協賛アラムコトヲ希望致シマス

○子爵戸澤正己君 只今議題トナリマシタ關稅定率法中改正法律案外三件ノ特別委員ノ數ヲ十八名トシ、其ノ委員ノ指名ヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ提出致シマス

○子爵秋田重季君 贊成
○假議長(公爵徳川圀順君) 戸澤子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセスカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○假議長(公爵徳川圀順君) 御異議ナイト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス
(佐藤書記官朗讀)

- 關稅定率法中改正法律案外三件特別委員
- 公爵山縣 有道君 伯爵柳原 義光君
 - 子爵梅小路定行君 子爵加藤 泰通君
 - 子爵大河内輝耕君 有吉 忠一君
 - 出淵 勝次君 賀屋 興宣君
 - 男爵赤松 範一君 男爵松岡 均平君
 - 結城豊太郎君 男爵島津 忠彦君
 - 濹澤 金藏君 磯野 庸幸君
 - 三橋四郎次君 田部長右衛門君

渡邊 甚吉君 侯爵淺野 長武君
○假議長(公爵徳川圀順君) 日程第十二、樺太開發株式會社法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、秋田拓務大臣

樺太開發株式會社法案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和十六年二月八日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

樺太開發株式會社法案

樺太開發株式會社法案

第一章 總則

第一條 樺太開發株式會社ハ樺太ニ於ケル經濟開發ヲ目的トスル株式會社トシ其ノ本店ヲ豊原市ニ置ク

第二條 樺太開發株式會社ノ資本ハ五千萬圓トス但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケテ之ヲ增加スルコトヲ得

第三條 政府ハ樺太開發株式會社ニ對シ其ノ資本ノ半額ヲ限リ出資スルコトヲ得
政府所有ノ株式ノ株金拂込ハ其ノ他ノ株式ノ株金拂込ト之ヲ異ニスルコトヲ得
政府ハ樺太廳長官ノ管理ニ屬スル金錢以外ノ財産ヲ以テ樺太開發株式會社ニ對スル出資ノ目的ト爲シ又ハ其ノ所有スル株式ノ第二回以後ノ株金拂込ニ充ツルコトヲ得
政府前項ノ規定ニ依リ出資又ハ株金ノ

拂込ヲ爲サントスルトキハ出資又ハ株金拂込ノ目的タル財産ノ價格ニ付樺太官有財産評價委員會ニ諮問スベシ
樺太官有財産評價委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 前條ノ規定ニ依リ政府ニ於テ引受ケタル株式ノ拂込金ハ樺太廳特別會計ノ歳出トス

第五條 樺太開發株式會社ニ對スル政府ノ出資ハ樺太廳特別會計ノ所屬トス

第六條 樺太開發株式會社ノ株式ハ記名式トシ政府、公共團體、帝國臣民又ハ帝國法人ニシテ社員、株主若ハ業務ヲ執行スル役員ノ半數以上、資本ノ半額以上若ハ議決權ノ過半數ガ外國人若ハ外國法人ニ屬セザルモノニ限リ之ヲ所有スルコトヲ得

第七條 樺太開發株式會社ニ非ザルモノハ樺太開發株式會社又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ以テ其ノ商號ト爲スコトヲ得ズ

第二章 役員
第八條 樺太開發株式會社ニ社長副社長各一人、理事三人以上及監事二人以上ヲ置ク

第九條 社長ハ樺太開發株式會社ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス
副社長ハ社長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ社長缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ
副社長及理事ハ社長ヲ輔佐シ定款ノ定ムル所ニ依リ樺太開發株式會社ノ業務ヲ分掌シ又ハ之ニ參與ス
監事ハ樺太開發株式會社ノ業務ヲ監査ス

第十條 社長及副社長ハ主務大臣之ヲ命ジ其ノ任期ヲ五年トス
理事ハ株主總會ニ於テ選舉シタル二倍ノ候補者中ヨリ主務大臣ヲ命ジ其ノ任期ヲ四年トス
監事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ヲ二年トス

第十一條 社長、副社長及業務ヲ分掌スル理事ハ他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ主務大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三章 營業
第十二條 樺太開發株式會社ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス
一 鑛業、林業、農業及畜産業
二 農林畜産物ノ加工事業
三 經濟開發ノ爲ニ必要ナル資金ノ供給
四 前各號ノ事業ニ附帶スル事業
五 前各號ノ外經濟開發ノ爲ニ必要ナル事業

前項第四號又ハ第五號ノ事業ヲ營マントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ
第四章 樺太開發債券
第十三條 樺太開發株式會社ハ拂込ミタル株金額ノ三倍ヲ限リ樺太開發債券ヲ發行スルコトヲ得
樺太開發債券ヲ發行スル場合ニ於テハ

發行スルコトヲ得

商法第二百九十六條ノ規定ヲ適用セズ
第十四條 樺太開發債券ヲ發行セントス
ルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第十五條 樺太開發債券ノ所有者ハ樺太
開發株式會社ノ財産ニ付他ノ債權者ニ
先立チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權
利ヲ有ス

前項ノ規定ハ民法上ノ一般ノ先取特權
ノ行使ヲ妨グルコトナシ

第五章 利益金ノ處分
第十六條 樺太開發株式會社利益金ノ處
分ヲ爲サントスルトキハ主務大臣ノ認
可ヲ受クベシ

第十七條 樺太開發株式會社ハ每營業年
度ニ準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲
利益金額ノ百分ノ八以上ヲ積立テ且利
益配當ノ平均ヲ得シムル爲利益金額ノ
百分ノ二以上ヲ積立ツベシ

第十八條 樺太開發株式會社ハ每營業年
度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政
府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタ
ル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ達
スル迄政府ノ所有スル株式ニ對シ利益
ノ配當ヲ爲スコトヲ要セズ

第十九條 樺太開發株式會社ハ每營業年
度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政
府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタ
ル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超
過スル場合ニ於テ政府以外ノ者ノ所有
スル株式ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超
エ利益配當ヲ爲サントスルトキハ其ノ

超過スル利益金額ハ利益配當ガ總株式
ニ付拂込ミタル株金額ニ對シ均一ノ割
合ニ達スル迄政府以外ノ者ノ所有スル
株式ノ拂込ミタル株金額及政府ノ所有
スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ一
ト四トノ割合ヲ以テ之ヲ配當スベシ

第六章 政府ノ監督
第二十條 主務大臣ハ樺太開發株式會社
ノ業務ヲ監督ス

第二十一條 主務大臣ハ樺太開發株式會
社監督官ヲ置キ樺太開發株式會社ノ業
務ヲ監視セシム

樺太開發株式會社監督官ハ何時ニテモ
樺太開發株式會社ノ金庫、帳簿及諸般
ノ文書物件ヲ検査スルコトヲ得

樺太開發株式會社監督官必要ト認ムル
トキハ何時ニテモ樺太開發株式會社ニ
命ジ業務ニ關スル諸般ノ計算及狀況ヲ
報告セシムルコトヲ得

樺太開發株式會社監督官ハ株主總會其
ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述ス
ルコトヲ得

第二十二條 樺太開發株式會社借入金ヲ
爲サントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ
受クベシ

第二十三條 樺太開發株式會社ハ每營業
年度ノ事業計畫ヲ定メ主務大臣ノ認可
ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦
同ジ

第二十四條 樺太開發株式會社ノ定款ノ
變更、合併及解散ノ決議ハ主務大臣ノ

認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生
ゼズ

第二十五條 主務大臣ハ樺太開發株式會
社ノ業務ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ
發スルコトヲ得

第二十六條 主務大臣ハ樺太開發株式會
社ノ決議又ハ役員ノ行爲ガ法令、法令
ニ基キテ爲ス處分若ハ定款ニ違反シ又
ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ決議
ヲ取消シ又ハ役員ヲ解任スルコトヲ得

第二十七條 主務大臣ハ本法中其ノ職務
ニ屬スル事項ノ一部ヲ樺太廳長官ニ委
任スルコトヲ得

第七章 罰則
第二十八條 樺太開發株式會社本法若ハ
本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キ
テ爲ス處分ニ違反シタルトキハ社長又
ハ社長ノ職務ヲ行ヒ若ハ代理スル副社
長ヲ五千圓以下ノ過料ニ處ス副社長又
ハ理事ノ分掌業務ニ係ルトキハ副社長
又ハ理事ヲ過料ニ處スルコト亦同ジ

第二十九條 第七條ノ規定ニ違反シタル
者ハ千圓以下ノ過料ニ處ス

附則
第三十條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行
ス

第三十一條 主務大臣ハ設立委員ヲ命ジ
樺太開發株式會社ノ設立ニ關スル事務
ヲ處理セシム

第三十二條 設立委員ハ定款ヲ作成シ主
務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第三十三條 前條ノ認可アリタルトキハ
設立委員ハ株式總數ヨリ政府ニ割當ツ
ベキ株式ヲ控除シタル殘餘ノ株式ニ付
株主ヲ募集スベシ

第三十四條 株式申込證ニハ定款認可ノ
年月日並ニ商法第七十五條第二項第
二號及第四號乃至第七號ニ規定スル事
項ヲ記載スベシ

第三十五條 設立委員ハ株主ノ募集ヲ終
リタルトキハ株式申込證ヲ主務大臣ニ
提出シ其ノ検査ヲ受クベシ

設立委員ハ前項ノ検査ヲ受ケタル後遲
滯ナク各株ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サン
メ其ノ拂込アリタルトキハ遲滯ナク創
立總會ヲ召集スベシ

第三十六條 創立總會ニ於テハ第十條ノ
規定ニ準ジ理事候補者ノ選舉及監事ノ
選任ヲ行フベシ

第三十七條 創立總會終結シタルトキハ
設立委員ハ其ノ事務ヲ樺太開發株式會
社社長ニ引渡スベシ

第三十八條 商法第六十七條、第六十八
十一條及第八十五條ノ規定ハ樺太開
發株式會社ノ設立ニハ之ヲ適用セズ

第三十九條 本法施行ノ際現ニ樺太開發
株式會社又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ以テ商
號ト爲ス會社ハ本法施行後六月以内ニ
其ノ商號ヲ變更スルコトヲ要ス

第七條ノ規定ハ前項ノ期間内之ヲ同項
ニ掲グル者ニ適用セズ

第四十條 明治四十五年法律第二十三號

第一條第二項中「人造石油製造專業ノ許可ヲ受ケタル會社」ノ下ニ「又ハ樺太開發株式會社」ヲ加フ

第四十一條 登録稅法第六條第一項第十號中「又ハ鑛業開發債券」ヲ「鑛業開發債券又ハ樺太開發債券」ニ改ム

〔國務大臣(秋田清君)演壇ニ登ル〕

○國務大臣(秋田清君) 只今議題トナリマシタ樺太開發株式會社法案ニ付キマシテ提案ノ理由ヲ簡單ニ御說明致シマス、時局ノ進展ニ伴ヒマシテ石炭ノ需要ハ最近著シク増加シテ參ツクデアリマスガ、樺太ニ於キマシテハ、良質ナル石炭ガ島内ニ多量ニ賦存致シテ居リマスノデ、之ヲ開發致シマシテ燃料國策ニ積極的ニ寄與スルコトハ、此ノ際緊要ナル方策ト考ヘル次第デアリマス、又樺太ノ豐富ナル森林ヲ開發シ、我が國工業ノ合理的經營ヲ圖リマスルコトハ、今日極メテ必要ト存ズルデアリマス、尙又同時ニ樺太ノ森林ノ恆久的保續ト之方積極的増殖トヲ圖ルコトモ、此ノ際特ニ留意スベキコトト存ジマスノデ、現在無立木ノ土地ニ對シテ廣範圍ノ造林事業ヲ實施致シタイト存ジマス、更ニ最近ニ於ケル帝國ノ食糧事情ニ鑑ミマシテ、島内ニ於テ是非共一部食糧ノ自給化ヲ圖ルコトガ喫緊ノ要務デアルト存ジマスノデ、之ガ爲ニ國有又ハ民有ノ未開地ノ開發ヲ行ヒ、以テ樺太特有ノ飼畜機械化農場ノ經營ヲ行ハムトスル次第デ

アリマス、上述ノ如キ樺太當面ノ各種喫緊ナル專業ヲ遂行シ、併セテ樺太ノ拓殖開發ニ資スル爲ニハ、國家ガ直接ニ指導監督シ得ル如キ機關ノ存立ヲ必要ト信ジマスノデ、政府ニ於キマシテハ今回樺太開發株式會社ヲ設立スルコトト致シタノデアリマス、次ニ本會社ノ概要ヲ申上ゲマスルガ、本會社ノ資本金ハ總額五千萬圓トシ、政府ト民間トガ折半出資スルコトト致シタイト存ジマス、會社ノ本店ハ豊原市ニ置キ、役員ハ社長、副社長各一人、理事三人以上、監事二人以上トシ、社長、副社長及理事ハ政府ニ於テ之ヲ任命スルデアリマス、事業内容ト致シマシテハ、前述ノ如ク鑛業、林業、農畜産業及其ノ加工事業ト、開發上必要ナル資金ノ供給トヲ中心トシ、旁、附帶事業ト開發上必要ナル各種事業トヲ營ムデアリマス、尙本會社ニ對シマシテハ、特權トシテ債券ノ發行ヲ許與シ、其ノ限度ヲ拂込資本金額ノ三倍ト致シマシタ外、毎年度ニ於ケル利益配當ニ付、民間所有ノ株式ニ對シテ年六分迄優先配當ヲ認メルコトトシ、又利益金額ガ六分ノ割合ヲ超過シタ場合ニ於キマシテハ、其ノ超過額ハ利益配當ガ拂込株金額ニ對シテ均一ノ割合ニ達スル迄、民間株ト政府株トニ對シテ一ト四ノ割合ヲ以テ之ヲ配當スルコトト致シ、以テ本會社ノ健全ナル發展ヲ庶幾スル積リデアリマス、尙本會社ノ性質ニ鑑ミマシテ、政府ハ之ニ必要ナル監督ヲ加フベキモノト存ジ、之ガ爲會社業務ノ重要事項ニ付テハ、政府ノ認

可又ハ許可ヲ受ケシメ、或ハ業務監督上必要ナル命令ヲ發シ得ルコトトスル等、會社ノ使命達成ニ遺憾ナカラムル所存デアリマス、以上ハ本案ヲ提案致シタ理由デゴザイマス、尙卒御審議ノ上御協賛アラムコトヲ切望致シマス

○子爵戸澤正己君 只今議題トナリマシタ樺太開發株式會社法案ノ特別委員ノ數ヲ十八名トシ、其ノ委員ノ指名ヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ提出致シマス

○子爵秋田重季君 贊成

○假議長(公爵徳川圀順君) 秋田子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○假議長(公爵徳川圀順君) 御異議ナイト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

- 〔佐藤書記官朗讀〕
- 樺太開發株式會社法案特別委員
- 公爵岩倉 具榮君 侯爵井上 三郎君
 - 伯爵兒玉 秀雄君 子爵米田 國臣君
 - 子爵梅園 篤彦君 子爵綾小路 護君
 - 平塚 廣義君 男爵松田 正之君
 - 男爵周布 兼道君 男爵西 酉乙君
 - 三浦 新七君 有賀 光豊君
 - 江口 定條君 水野甚次郎君
 - 岩田 三史君 佐々木長治君
 - 秋田 三一君 佐藤助九郎君

○假議長(公爵徳川圀順君) 日程第十三、陸軍軍法會議法中改正法律案、日程第十四、

海軍軍法會議法中改正法律案、政府提出、第一讀會ノ續、委員長報告、是等ノ兩案ヲ一括シテ議題ト爲スコトニ御異議ゴザイマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○假議長(公爵徳川圀順君) 御異議ナイト認メマス、委員長大島子爵

〔左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ倣フ〕

陸軍軍法會議法中改正法律案 右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十六年二月十日 委員長 子爵大島陸太郎

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

海軍軍法會議法中改正法律案 右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十六年二月十日 委員長 子爵大島陸太郎

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

〔子爵大島陸太郎君演壇ニ登ル〕

○子爵大島陸太郎君 只今議題トナリマシタ陸軍及海軍ノ各軍法會議法中改正法律案特別委員會ノ經過並ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、本委員會ハ二月六日開會、正副委員長ノ互選ヲ行ヒタル後、直チニ會議ヲ開キ、先ツ陸海軍當局ノ御説明ヲ聽取シ、七日、

八日ノ兩日質疑應答ガ行ハレマシタ、茲ニ質疑應答ノ要旨ニツテ御紹介致シマス、陸軍軍法會議法ニ付テハ、第九條第二項ニ「合圍地軍法會議ハ戒嚴ノ宣告アリタルトキ合圍地境ニ之ヲ特設ス」トアルガ、「之ヲ特設ス」トスルヨリハ「必要ニ因リ之ヲ特設ス」トシテハ如何、之ニ對シマシテ政府委員ヨリ、之ハ戒嚴令ニ依リ特設スルコトニナツテ居リマスカラ、先ヅ戒嚴令カラ改正ヲシテ掛ラナケレバ喰ヒ違ヒヲ生ジマス、從テ此ノ軍法會議法ノミヲ修正スル譯ニハ行キマセヌト云フ御答辯ガアリマシタ、次ニ第八十八條ノ三ニ、陸軍大臣ノ指定シタル辯護士、ト規定シタル理由如何、之ニ對シマシテ政府委員ヨリ、思想ニ於テ好マシカラズト認ムルモノハ、軍トシテハ軍法會議ニ立タシムル譯ニハ行キマセヌカラ、陸軍大臣ノ指定シタル辯護士ト定メタルモノデアリマス

トノ御答辯ガアリマシタ、海軍軍法會議法ニ付テハ特ニ御紹介致ス程ノコトモアリマセヌデシタカラ省略致シマス、以上ノ外、各委員諸君ヨリ幾多熱心ナル質疑ガアリマシタガ、長クナリマスカラ速記録ニ依ッテ御承知ヲ願ヒタイト存ジマス、右ノ次第ニ於テ質疑ヲ終リ、二月十日討論ニ入り採決ヲ致シマシタ處、兩案共原案通りニ全會一致ヲ以テ可決セラレタノデゴザイマス、簡單デゴザイマシタガ以上ヲ以テ報告ト致シマス

第二讀會ヲ開クコトニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ
○假議長(公爵徳川圀順君) 御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス
○子爵植村家治君 贊成
○假議長(公爵徳川圀順君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○假議長(公爵徳川圀順君) 御異議ナイト認メマス
○假議長(公爵徳川圀順君) 兩案ノ第二讀會ヲ開キマス、御異議ガナケレバ、全部ヲ問題ニ供シマス、兩案全部、委員長ノ報告通りデ御異議ゴザイマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○假議長(公爵徳川圀順君) 御異議ナイト認メマス
○子爵西大路吉光君 直チニ兩案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス
○子爵植村家治君 贊成
○假議長(公爵徳川圀順君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○假議長(公爵徳川圀順君) 御異議ナイト認メマス
○假議長(公爵徳川圀順君) 兩案ノ第三讀會ヲ開キマス、兩案全部、第二讀會ノ決議通りデ御異議ゴザイマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○假議長(公爵徳川圀順君) 御異議ナイト認メマス
○假議長(公爵徳川圀順君) 日程第十五、留萌鐵道株式會社及新潟臨港開發株式會社所屬鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案、日程第十六、田名部運輸軌道株式會社所屬軌道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案、日程第十七、富士身延鐵道株式會社及白棚鐵道株式會社所屬鐵道買收ニ關スル法律案、日程第十八、大正九年法律第五十六號中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告、是等ノ四案ヲ一括シテ議題ト爲スコトニ御異議ゴザイマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○假議長(公爵徳川圀順君) 御異議ナイト認メマス、委員長秋田子爵
留萌鐵道株式會社及新潟臨港開發株式會社所屬鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也
昭和十六年二月十日
委員長 子爵秋田 重季
貴族院議長伯爵松平賴壽殿

○假議長(公爵徳川圀順君) 御異議ナイト認メマス
○子爵秋田重季君 只今議題トナリマシタ留萌鐵道株式會社及新潟臨港開發株式會社所屬鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案外三件ニ關スル特別委員會ノ經過並ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、先ヅ是等四件ノ法律案ノ内容ヲ申上ゲマスガ、其ノ中二件ハ、地方鐵道ノ買收ニ關スルモノデアリ、他ノ一件ハ、軌道ノ經營廢止ニ對スル補償ニ關

營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也
昭和十六年二月十日
委員長 子爵秋田 重季
貴族院議長伯爵松平賴壽殿

○假議長(公爵徳川圀順君) 御異議ナイト認メマス
○子爵秋田重季君 只今議題トナリマシタ留萌鐵道株式會社及新潟臨港開發株式會社所屬鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案外三件ニ關スル特別委員會ノ經過並ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、先ヅ是等四件ノ法律案ノ内容ヲ申上ゲマスガ、其ノ中二件ハ、地方鐵道ノ買收ニ關スルモノデアリ、他ノ一件ハ、軌道ノ經營廢止ニ對スル補償ニ關

田名部運輸軌道株式會社所屬軌道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也
昭和十六年二月十日
委員長 子爵秋田 重季
貴族院議長伯爵松平賴壽殿

田名部運輸軌道株式會社所屬軌道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也
昭和十六年二月十日
委員長 子爵秋田 重季
貴族院議長伯爵松平賴壽殿

田名部運輸軌道株式會社所屬軌道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也
昭和十六年二月十日
委員長 子爵秋田 重季
貴族院議長伯爵松平賴壽殿

田名部運輸軌道株式會社所屬軌道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也
昭和十六年二月十日
委員長 子爵秋田 重季
貴族院議長伯爵松平賴壽殿

スルモノデアリマス、今一件ハ北海道拓殖鐵道補助ニ關スル法律ノ改正デアリマス、買收セムトスル鐵道ハ、留萌鐵道ノ臨港線、新瀉臨港鐵道、竝ニ目下政府ニ於テ借入經營中ノ富士身延鐵道及白棚鐵道ノ四鐵道デアリマシテ、何レモ是等鐵道ノ使命ト、時局下ノ必要ナル生産擴充ニ資セムガ爲、之ヲ買收シテ輸送力ノ強化ヲ圖ラムトスルモノデアリマス、又補償セムトスル軌道ハ、青森縣ノ田名部運輸軌道デアリマシテ、國有鐵道ガ接近並行シテ敷設シテアリマス結果、其ノ營業ヲ繼續スルコトガ出來ナクナリマシタ爲、其ノ營業廢止ニ依テ生ズル損失ヲ補償セムトスルモノデアリマス、而シテ留萌鐵道及新瀉臨港鐵道ノ買收竝ニ軌道ノ補償ハ、何レモ地方鐵道法又軌道法ノ規定ニ依ルモノデアリマスルカラ、法律案トシテハ單ニ買收又ハ補償ノ爲必要ナル額ヲ限度トシテ公債ヲ發行セムトス所謂起債法案デアリマスルガ、富士身延鐵道及白棚鐵道ハ借入鐵道デアリマシテ、直接地方鐵道法ニ依リ買收スル譯ニ參リマセヌノデ、是等ニ付テハ別箇ノ買收法案トナツテ居リマス、又北海道拓殖鐵道補助ニ關スル法律ノ改正ハ、北海道ニ於ケル鐵道軌道經營ノ現狀ニ鑑ミマシテ、拓殖上必要アリト認ムルモノニ對シテ補助期間ヲ延長シ、尙引續キ助成ヲナシ、運輸交通ノ完備ヲ期セムトスルモノデアリマス、委員會ハ去ル二月八日及十日ノ兩日ニ互リマシテ開會ヲ致シマシタ、四法案ヲ一括シテ審議致シマシタガ、其

ノ詳細ハ速記録ヲ御覽ヲ願ヒマシテ、茲ニ二ノ主要點ニ付テノミ御報告申上ゲマス、先ヅ鐵道買收ハ著シク利用者ノ便益ヲ増進スルモノデアリマスルカラ、政府ハ尙一層買收ヲ進ムベキモノデアアル、若シ公債政策上是ガ許サレナイトスルナラバ、運賃問題等ニ關シテ他ニ之ニ代ルベキ方法ヲ考ヘテハドウダ、ト云フ御質問ガアツクノデアリマス、之ニ對シマシテ政府ハ、買收ニ付テハ公債政策ヲモ考慮ノ上順次進メテ行キタイ、又他ノ方法ニ付キマシテモ尙調査スル考デアアル、ト云フ御答ガアリマシタ、又北海道拓殖鐵道補助期間ハ屢、延長サレテ居ルガ、之ニ付テハ一方北海道ノ開發ソレ自體ニ付テ更ニ根本的ナ對策ヲ講ズル必要ガアルヤウニ思フガ、トノ質問ガアリマシテ、之ニ對シマシテ政府ハ、此ノ點ハ政府ニ於テモ其ノ必要ヲ認メ、目下開發ノ綜合計畫ニ付研究中デアルト云フ御答デアリマシタ、又北海道ト本州トヲ海底隧道ヲ以テ連絡スルコトハ、國防上及ビ北海道ノ開發上ヨリ見テ必要ト思フカラ、政府ハ速カニ之ガ實現ニ努力セラレタイト云フ御發言モアリマシタ、質疑ヲ終リマシテ、討論ニ移リマシタガ、一委員カラ四件全部ニ付、原案ニ贊成スル旨ノ御意見ガアリマシタ、更ニ港灣ニ於ケル事務處理方法ノ改善、省營自動車ノ開業ニ依ツテ、地方鐵道或ハ軌道ニ損失ヲ與ヘタ場合ノ補償ニ關スル法規ノ制定等ヲ希望セラレタノデアリマス、次デ採決ニ入リマシタ處、全會一致ヲ以テ四件共原案通

リニ可決致シタノデアリマス、以上ヲ以テ御報告ヲ終リマス

○假議長(公爵徳川圀順君) 別ニ御發言モナケレバ、四案ノ採決ヲ致シマス、四案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○假議長(公爵徳川圀順君) 御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ各案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵梅園篤彦君 贊成

○假議長(公爵徳川圀順君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○假議長(公爵徳川圀順君) 御異議ナイト認メマス

○假議長(公爵徳川圀順君) 四案ノ第二讀會ヲ開キマス、御異議ガナケレバ、全部ヲ問題ニ供シマス、四案全部、委員長ノ報告通りデ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○假議長(公爵徳川圀順君) 御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ各案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵梅園篤彦君 贊成

○假議長(公爵徳川圀順君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○假議長(公爵徳川圀順君) 御異議ナイト認メマス

○假議長(公爵徳川圀順君) 四案ノ第三讀會ヲ開キマス、四案全部、第二讀會ノ決議通りデ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○假議長(公爵徳川圀順君) 御異議ナイト認メマス

○假議長(公爵徳川圀順君) 日程第十九、軍機保護法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告、委員長大島子爵

軍機保護法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十六年二月十日

委員長 子爵大島陸太郎

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

〔子爵大島陸太郎君演壇ニ登ル〕

○子爵大島陸太郎君 只今議題トナリマシタ軍機保護法中改正法律案ハ、陸海軍ノ軍法會議法中改正法律案特別委員會ニ併託セラレタルモノデゴザイマス、茲ニ其ノ經過竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、二月十日開會、直チニ會議ヲ開キ、當局ノ御説明ヲ聽取シマシタ後、質疑ニ入りマシタ、本改正法律案ハ次ノ二件デゴザイマス、即チ第七條中「千圓以下ノ罰金」ヲ「三年以下ノ禁錮又ハ三千圓以

下ノ罰金ニ改ム、第十二條第一項第二號中「撮影」ヲ「撮影若ハ模寫」ニ改ムトノ二項目デゴザイマシタ爲ニ、質疑應答モ次ノ一件デゴザイマシタ、第七條ノ過失ニ依ル違反件數ハ何件アリシヤトノ問ニ對シマシテ、政府委員ヨリ、陸軍ニ於テハ二十八件、内處刑ヲ受ケタル者十三、其ノ他ハ不起訴、海軍ニ於テハ三件、内處分セラレタルモノ一件、他ハ不起訴トノ御答辯ガアリマシタ、此ノ外ハ質疑應答ナク、直チニ討論ニ入り、採決ヲ致シマシタル處、原案通りニ全員一致ヲ以テ可決セラレタノデゴザイマス、右ヲ以テ報告ト致シマス

○假議長(公爵徳川圀順君) 別ニ御發言モナケレバ、本案ノ採決ヲ致シマス、本案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ゴザイマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○假議長(公爵徳川圀順君) 御異議ナイト認メマス
○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵梅園篤彦君 賛成
○假議長(公爵徳川圀順君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○假議長(公爵徳川圀順君) 御異議ナイト認メマス

○假議長(公爵徳川圀順君) 本案ノ第二讀會ヲ開キマス、御異議ガナケレバ、全部ヲ問題ニ供シマス、本案全部、委員長ノ報告通

リデ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ
○假議長(公爵徳川圀順君) 御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス
○子爵梅園篤彦君 賛成

○假議長(公爵徳川圀順君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○假議長(公爵徳川圀順君) 御異議ナイト認メマス

○假議長(公爵徳川圀順君) 本案ノ第三讀會ヲ開キマス、本案全部、第二讀會ノ決議通りデ御異議ゴザイマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○假議長(公爵徳川圀順君) 御異議ナイト認メマス、次會ノ議事日程ハ、決定次第彙報ヲ以テ御通知ニ及ビマス、本日ハ是ニテ散會致シマス
午後零時三十七分散會

貴族院議事速記録第五號正誤

頁 段 行 誤 正
五〇 一九 印刷 印刷

官報號外

昭和十六年二月十三日

貴族院議事速記錄第十二號